

設置計画の概要

事 項	記 入 欄
設置手続きの種類	事前伺い
計画の区分	学部の学科の設置
フリガナ者	コカソダ'イカ'ホウジン オオサカキョウイク'ダイガク 国立大学法人 大阪教育大学
フリガナ者 大学の名称	オオサカキョウイク'ダイガク 大阪教育大学 (Osaka Kyoiku University)
新設学部等において養成する人材像	<p>【初等教育教員養成課程】 ①天王寺地区の初等教育教員養成課程では、幼児期にふさわしい主体的な遊びを中心とした総合的な指導から児童期にふさわしい学習などの指導への移行を円滑にできる教員と小学校の全教科・領域及び今日的な教育課題への対応と共に幼児教育からの接続を理解した教員を養成する。 ②グローバル化時代に対応できるための「多様性理解力」や「汎用基礎力=21世紀型能力」をベースとして、英語を中心とした外国語能力やICT活用力と共に、幼児教育についての知識と技能を基盤として小学校への接続を理解する能力や小学教育についての全教科・領域に関する幅広い知識・技能・指導力を基盤として幼稚園からの接続を理解する能力を修得させる。 ③教員(幼稚園・小学校)</p> <p>【初等教育教員養成課程(夜間)】 ①天王寺地区の初等教育教員養成課程(夜間)では、小学校の全教科・領域及び今日的な教育課題への対応や幼児教育からの接続を意識した実践力の高い教員を養成する。 ②グローバル化時代に対応できるための「多様性理解力」や「汎用基礎力=21世紀型能力」をベースとして、英語を中心とした外国語能力やICT活用力と共に、小学教育についての全教科・領域に関する幅広い知識・技能・指導力を基盤として幼児教育からの接続を意識した社会経験を活かした現場実践力を修得させる。 ③教員(小学校)</p> <p>【教育協働学科】 ①教育に関する基礎的知識と専門分野の知識技能を備え、課題分析力・構想力・マネジメント力からなる「協働力」を修得させると共に、課題解決型学習で実践力を身に付けさせることにより、教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な教育課題の解決を図る人材を養成する。 ②教育の基礎理論、学校理解や子供理解を基盤とした「教育理解」、協働における問題点を見いだす「課題分析力」、協働の枠組みを実現可能性のあるプランとしてまとめることができる「構想力」、調整し統制する「マネジメント力」、各専攻分野における「専門的知識・技能」を修得させるとともに、課題解決型学習で実践力を身に付けさせる。 ③国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び民間企業(教育関連分野、教育社会貢献活動部門)で学校・家庭・地域・社会と連携・協働ができる人材、大学院進学など</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>【幼稚園教員養成課程】 ①②幼児を理解する力や豊かな表現力を身につけ、高度な実践力・専門性及び幼児教育の総合的な視点を持つ幼稚園教員を養成する。そのために、幼児と出会う・幼児の発達を理解する・現実の幼児教育に関わる、の3つのステップを中心に、幼児とのふれあいの中から多くを学び、「幼児教育の現場と関わりつつ学ぶ」という創造的・体験的な側面を重視し、さらには、学校安全や危機対応についての知識や能力を養うことを目指す。 ③教員(幼稚園・小学校) など</p> <p>【第二部小学校教員養成課程】 ①②昼間の勤務経験や教育現場でのインターンシップ活動など豊富な経験をもとに、豊かな人間性と社会性を備え、かつ、高い専門知識と優れた実践的能力を備えた小学校教員を養成する。そのために、5年間の講義をとおして、教育学の理論的基礎はもとより、具体的な授業の進め方や子供たちとのコミュニケーションの取り方など、学校教員として必要な基礎的知識、実践的な技術・技能を修得するとともに、得意な分野や教科を深め、専門的で創造的な探求能力、さらには、学校安全や危機対応についての知識や能力を養うことを目指す。編入生に対しては、学生一人ひとりの学歴や専門性を活かし、優れた実践的能力を備えた小学校教員の養成を目指し、現職教員についても、個性や経歴を尊重した再教育を行うとともに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養うことを目指す。 ③教員(小学校・中学校) など</p> <p>【教養学科】 ①②豊かな教養を基礎に、高い専門的知識や技能をもって、自立した市民として社会の多様な分野の発展に貢献できる人材を育成するとともに、全学学生に豊かな教養教育を提供する。そのために、人文科学、社会科学、数理学、自然科学、情報科学、健康科学、生活環境、芸術、スポーツなどの分野で総合性の高い教育研究を推進することによって、高い倫理性、創造的な探求心、柔軟な思考力及び豊かなコミュニケーション能力を養うことを目指す。 ③医療・医薬品・福祉関連企業、社会福祉法人、化学系企業、分析測定企業、食品メーカー、住宅関連企業、情報通信企業、スポーツインストラクター、スポーツ用品販売企業、楽器製造販売会社、音楽講師、デザイン企業、教育関係企業・旅行会社・警察・教員・公務員など</p>
新設学部等において取得可能な資格	<p>【課程・学科共通】 ・学校図書館司書教諭 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、教育職員免許状申請に必要な科目及び学校図書館司書教諭に関する科目が必要 ・社会教育主事 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、社会教育に関する科目の修得及び1年以上社会教育主事補の職にあることが必要 ・図書館司書 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、図書館司書に関する科目が必要</p> <p>【初等教育教員養成課程】 ・幼稚園教諭一種 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の修得が必要</p> <p>【初等教育教員養成課程(夜間)】 ・小学校教諭一種 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目の修得が必要</p> <p>【教育協働学科】 ・中学校教諭一種(国語)、高校教諭一種(国語) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(数学)、高校教諭一種(数学) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(理科)、高校教諭一種(理科) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(英語)、高校教諭一種(英語) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の修得が必要</p>

新設学部等において取得可能な資格	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種(家庭), 高校教諭一種(家庭), 養護教諭一種 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(音楽), 高校教諭一種(音楽) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(美術), 高校教諭一種(美術) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(保健体育), 高校教諭一種(保健体育) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要
------------------	--

既設学部等において取得可能な資格	<p>【課程・学科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書教諭 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教育職員免許状申請に必要な科目及び学校図書館司書教諭に関する科目が必要 ・社会教育主事 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 社会教育に関する科目の修得及び1年以上社会教育主事補の職にあることが必要 ・図書館司書 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 図書館司書に関する科目が必要 <p>【幼稚園教員養成課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭一種, 小学校教諭一種 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 <p>【第二部小学校教員養成課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭一種, 中学校教諭一種(社会, 理科) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 <p>【教養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種(国語), 高校教諭一種(国語) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(社会), 高校教諭一種(地理歴史, 公民) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(数学), 高校教諭一種(数学) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(理科), 高校教諭一種(理科) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・高校教諭一種(情報) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(英語), 高校教諭一種(英語) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(家庭), 高校教諭一種(家庭, 看護), 養護教諭一種 ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(音楽), 高校教諭一種(音楽) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(美術), 高校教諭一種(美術, 書道) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要 ・中学校教諭一種(保健体育), 高校教諭一種(保健体育) ①国家資格 ②資格取得可能 ③卒業要件単位に含まれる科目のほか, 教職関連科目の修得が必要
------------------	--

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
						学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元		
									助教以上	うち教授	
教育学部 [Faculty of Education]	初等教育教員養成課程 [Elementary School Teacher Program]	4	60	-	240	学士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成29年 4月	幼稚園教員養成課程	3	1
									学校教育教員養成課程	2	0
	教養学科	4	3								
初等教育教員養成課程(夜間) [Elementary School Teacher Program(Evening Course)]	5	40	3年次 25	275	学士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成29年 4月 第1年次	幼稚園教員養成課程(再掲)	3	1	
								学校教育教員養成課程(再掲)	2	0	
教養学科(再掲)	4	3									
教育協働学科 [Department of Educational Collaboration]	4	350	-	1,400	学士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成31年 4月 第3年次	第二部小学校教員養成課程(再掲)	11	6	
								大学院連合教職実践研究科(再掲)	1	0	
計								21	10		
計								平成29年 4月	教養学科	63	34
									学校危機メンタルサポートセンター	3	1
									教職教育研究センター	1	0
									国際センター	1	1
計								68	36		

	既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	授与する学位等		開設時期	専任教員											
						学位又 は称号	学位又は 学科の分野		異動先	助教 以上	うち 教授									
既設学部等の概要 (現在の状況)	教育学部	幼稚園教員養成課程(廃止)	4	15	-	60	学士 (教育学)	教育学・保育学 関係	昭和42年 4月	初等教育教員養成課程	3	1								
										計	3	1								
										学校教育教員養成課程	4	395	-	1,580	学士 (教育学)	教育学・保育学 関係	平成22年 4月	初等教育教員養成課程	2	0
																		学校教育教員養成課程	91	54
	大学院連合教職実践研究科	2	2	計	95	56														
	教養学科(廃止)	4	405	-	1,620	学士 (教養)	教育学・保育学 関係	昭和63年4 月	初等教育教員養成課程	4	3									
									学校教育教員養成課程	3	1									
									教育協働学科	63	34									
	計	70	38																	
	第二部小学校教員養成課程(廃止)	5	40	3年次 50	350	学士 (教育学)	教育学・保育学 関係	昭和29年 4月	初等教育教員養成課程	11	6									
									計	11	6									
	連合教職実践研究科	高度教職開発専攻	2	30	-	60	教職修士 (専門職)	-	平成27年 4月	初等教育教員養成課程	1	0								
										大学院連合教職実践研究科	17	11								
計										18	11									

【備考欄】

入学定員変更及び学生募集停止(予定)

- 幼稚園教員養成課程(廃止)(△15)
※平成29年4月学生募集停止
- 第二部小学校教員養成課程(廃止)(△40)
(三年次編入定員)(△50)
※平成29年4月学生募集停止
(三年次編入定員は、平成31年4月学生募集停止)
- 学校教育教員養成課程(定員増)(25)(平成29年4月予定)
- 特別支援教育教員養成課程(廃止)(△45)
※平成29年4月学生募集停止
- 初等教育教員養成課程(60)
- 初等教育教員養成課程(夜間)(40)
(三年次編入定員)(25)
※三年次編入定員は、平成31年4月募集開始予定
- 教養学科(廃止)(△405)
※平成29年4月学生募集停止
- 教育協働学科(350)

教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学部初等教育教員養成課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養基礎科目	分野別科目 思索と芸術	日本人の宗教観	1前	2			○								兼1	集中	
		平安朝文学世界への誘い	1前	2			○								兼1		
		コンサートへの誘い	1前	2				○							兼9		
		和歌の表現世界を知る	1前	2			○								兼1		
		読むための視点	1後	2			○								兼1		
		ドイツ文学を読む	1後	2			○								兼1		
		芸術理論：フランス近代美学から	1後	2			○								兼1		
		民族と音楽：東南アジアを中心に	1後	2				○							兼1		
		ユーラシア美術史	1後	2			○								兼1		メディア
		アジアの中の日本美術史	1後	2			○								兼1		メディア
		日本語史のイロハ	1後	2			○								兼1		
		教養と美	1後	2			○								兼15		
	比較文学論	1後	2			○								兼1			
	日本語表現法	1後	2			○								兼1			
	国際と地域	日本事情	1前	2			○								兼1	集中	
		海外文化研究	1前	2				○							兼2		
		国際関係論入門	1前	2			○								兼1		
		Cross-cultural Communication①	1前	1				○							兼1		
		Cross-cultural Communication②	1前	1				○							兼1		
		Japanese Culture①	1前・後	1				○							兼1		
		Japanese Culture②	1前・後	1				○							兼1		
		Media Studies①	1後	1				○							兼1		
		Media Studies②	1後	1				○							兼1		
		Discussion Skills①	1前	1				○							兼1		
		Discussion Skills②	1前	1				○							兼1		
		Academic Presentation Skills①	1後	1				○							兼2		
		Academic Presentation Skills②	1後	1				○							兼2		
		英語による教養①	1前	1				○							兼1		
		英語による教養②	1前	1				○							兼1		
		英語による教養③	1前	1				○							兼1		
		英語による教養④	1前	1				○							兼1		
	英語による教養⑤	1前	1				○							兼1			
	英語による教養⑥	1前	1				○							兼1			
英語による教養⑦	1後	1				○							兼1				
英語による教養⑧	1後	1				○							兼1				
歴史と社会	日本国憲法	1前	2			○								兼1	メディア メディア		
	部落問題概論	1前	2			○								兼1			
	持続発展教育と世界遺産	1前	2			○								兼1			
	日本美術の流れ	1前	2			○								兼1			
	地域から見る世界史	1前	2			○								兼1			
	地域史としての考古学	1後	2			○								兼1			
	日本科学技術史概論	1後	2			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養基礎科目	歴史と社会	近現代外交史	1後	2		○									兼1	
		政治と社会	1後	2		○									兼1	メディア
	人間と生活	ダイバーシティと人権	1後	2		○									兼1	
		現代消費社会論	1前	2		○									兼1	
		平和のための教育	1前	2		○									兼1	
		現代社会学の方法と実践	1前	2		○									兼1	
		現場に活かすスポーツ実践論	1前	2		○									兼1	
		健康科学への招待	1前	2		○									兼3	オムニバス
		生活環境をさぐる	1前	2		○									兼3	オムニバス
		地域連携学校教育入門ー現代社会を生きるー	1前	2		○									兼1	
		健康科学論	1前	2		○									兼1	メディア
		貨幣とわれわれの社会	1後	2		○									兼1	
		都市防災対策と防災教育	1後	2		○									兼1	メディア
		心理生理学	1後	2		○									兼1	メディア
		性倫理と性教育	1後	2		○									兼1	メディア
		野外教育論	1後	2		○									兼1	メディア
	対人コミュニケーションの心理学	1後	2		○									兼1		
	生命と環境	水と環境を考える	1前	2		○									兼1	
		生命と共生	1前	2		○									兼1	
		地球と災害	1前	2		○									兼1	
		DNAを中心とした生命科学	1後	2		○									兼1	
		はかってなんぼー環境をはかる	1後	2		○									兼1	
		地球と環境	1後	2		○									兼1	
		ミクロの生物学入門	1後	2		○									兼1	
		大阪の環境と地球環境	1後	2		○									兼1	
		自然史博物館への招待	1後	2		○									兼1	
		生物学と医学の出会い	1後	2		○									兼1	
		暮らしの環境と地図	1前	2		○									兼1	
	持続可能な開発のための教育(ESD)概論	1後	2		○									兼1	メディア	
	数理情報と自然	ベクトルとその応用を理解する	1前	2		○									兼1	
		はかってなんぼー学校編	1前	2		○									兼1	
		科学常識を考える	1前	2		○									兼1	
		科学の基本	1前	2		○									兼1	
		論理と数理パズル	1前	2		○									兼1	
		歴史を変えた有機化合物	1後	2		○									兼1	
		体験しよう！かがく実験	1後	2				○							兼1	
		論理と数理パズル 上級編	1後	2		○									兼1	
	教育とキャリア	キャリアデザイン	1前	2		○									兼1	
		インターンシップとキャリア	1前	2		○									兼1	
		学校教育と著作権	1前	2		○									兼1	
		教育科学の基礎	1後	2		○									兼7	
		ことばと教育	1後	2		○									兼1	
		国際理解教育	1後	2		○									兼2	
		アジア理解教育	1後	2		○									兼2	
		人間と道徳	1前	2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養基礎科目	分野別科目 教育とキャリア	教員のための数学	1後	2		○									兼1	
		環境教育論	1前	2		○									兼1	
		消費者教育論	1後	2		○									兼1	
		表現教育	1後	2		○									兼3	
		遊びとスポーツ	1前	2		○									兼1	
		教職実践論	1後	2		○									兼1	
		小計 (93科目)	—	2	166	0	—			0	0	0	0	0	兼107	
	総合科目	基盤教養科目	資料・情報利用法	1後	2			○								兼1
			クリティカル・シンキング入門	1後	2			○								兼1
			コンピュータを使った統計入門	1後	2			○								兼1
			メディア・リテラシー演習	1後	2			○								兼2
			科学的・批判的思考の実践	1前	2		○									兼1
			古典から学ぶ大学	1前	2		○									兼4
			アクティブ・ラーニング入門	1前	2			○								兼2 集中
多様性理解科目		「障害」者と人権	1前	2		○									兼1	
		ジェンダーとセクシュアリティ	1後	2		○									兼1	
		共生社会論	1前	2		○									兼1	
		国際理解	1後	2		○									兼1	
		多文化共生の社会をめざして	1前	2		○									兼1	
		障害者支援入門	1後	2		○									兼1	
		外国人児童生徒教育	1前	2		○									兼1	
小計 (14 科目)	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼19			
共通基礎科目	言語科目	英語 I a	1前	1			○		1	1						
		英語 I b	1後	1			○			1						
		英語 II a	2前	2			○		1							
		英語 II b	2後	2			○		1	1						
		ドイツ語 I a	1前	1			○								兼1	
		ドイツ語 I b	1後	1			○								兼1	
		ドイツ語 II a	2前	2			○								兼1	
		ドイツ語 II b	2後	2			○								兼1	
		フランス語 I a	1前	1			○								兼1	
		フランス語 I b	1後	1			○								兼1	
		フランス語 II a	2前	2			○								兼1	
		フランス語 II b	2後	2			○								兼1	
		中国語 I a	1前	1			○								兼1	
		中国語 I b	1後	1			○								兼1	
		中国語 II a	2前	2			○								兼1	
		中国語 II b	2後	2			○								兼1	
		外国語コミュニケーション	2前・後	2			○			1						
		韓国語 I a	1前	1			○								兼1	
		韓国語 I b	1後	1			○								兼1	
		韓国語 II a	2前	2			○								兼1	
		韓国語 II b	2後	2			○								兼1	
		日本語 I a	1前	1			○								兼1	
日本語 I b	1後	1			○								兼1			

外国人留学生のみ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎科目	言語科目	日本語Ⅱ a	2前	2			○								兼1	} 外国人留学生のみ
		日本語Ⅱ b	2後	2			○								兼1	
		小計 (25 科目)	—	6	32	0		—		2	2	0	0	0	兼5	
	体育科目	スポーツ実技 a	1前	1				○			1					
		スポーツ実技 b	1後	1				○			1					
		小計 (2 科目)	—	2	0	0		—		0	1	0	0	0		
	ICT科目	ICT基礎 a	1前	2				○				1				
		ICT基礎 b	1後	1				○			1	1				
		小計 (2 科目)	—	3	0	0		—		0	1	1	0	0		
教職基礎科目	特別なニーズのある子どもの教育	1後	2				○				1					
	人権教育論	2後	2				○								兼1	
	学校安全	2前	2				○								兼1	
	幼小連携教育論	3前	2				○		1	1						
	インクルーシブ教育システム基礎論	1前		2			○								兼1	
	発達障害教育	2前		2			○								兼1	
	発達障害指導論	4前		2			○								兼1	
小計 (7 科目)	—	8	6	0		—		1	2	0	0	0		兼5		
教職関連科目	教職専門科目 (幼児教育)	教職入門	1前	2			○				1					
		教育総論	1後	2			○				1					
		発達と学習の心理学	1後	2			○			1						
		学校の役割と経営	2前	2			○								兼1	
		幼児教育課程論Ⅰ	2前	2			○				1					
		幼児教育課程論Ⅱ	3後	2			○				1					
		幼児教育指導法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		幼児教育指導法Ⅱ	3後	2			○								兼1	
		幼児臨床学	3後	2			○			1						
		教育実習	3後	5					○	1						集中
		教職実践演習 (幼・小)	4後	2				○		3	3					
小計 (11 科目)	—	25	0	0		—		3	3	0	0	0		兼2		
教職専門科目 (小学校教育)	教職入門	1前	2			○				1						
	教育総論	1後	2			○				1						
	発達と学習の心理学	1後	2			○			1							
	学校の役割と経営	2前	2			○								兼1		
	教育実践論	2前	2			○			1							
	道徳教育論	3後	2			○				1						
	生徒指導・進路指導論	2前	2			○								兼1		
	教育相談の心理学	3後	2			○			1							
	教育実習	3後	5					○						兼1		
	教職実践演習 (幼・小)	4後	2				○		2	2						
小計 (10 科目)	—	23	0	0		—		3	2	0	0	0		兼3		
(保育内容指導法) 科目	健康の指導法	2後	2			○									兼1	
	環境の指導法	2前	2			○									兼1	
	表現の指導法Ⅰ	2前	1			○									兼1	
	表現の指導法Ⅱ	2後	1				○								兼1	
	人間関係の指導法	2前	2			○			1						集中	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教職関連科目	保育指図書(幼児科)	言葉の指導法	2前	2			○								兼1	集中	
		小計(6科目)	—	10	0	0	—		1	0	0	0	0		兼5		
	初等教科教育法科目(小学校教育)	初等国語科教育法(書写を含む。)	3前	2			○			1						兼1	
		初等社会科教育法	3前	2			○									兼1	
		算数科教育法	3前	2			○				1					兼1	
		初等理科教育法	3後	2			○									兼1	
		生活科教育法	2前	2			○									兼1	
		初等音楽科教育法	3後	2			○				1						
		図画工作科教育法	2前	2			○				1						
		初等家庭科教育法	2後	2			○									兼1	
		体育科教育法	2後	2			○					1					
		初等英語科教育法	3後	2			○					1					
		小計(10科目)	—	20	0	0	—		1	5	0	0	0		兼4		
学校インシタプン(幼児)	幼児教育インターンシップ	2通	2					○	1	1							
	小計(1科目)	—	2	0	0	—		1	1	0	0	0					
学校インシタプン(小学校)	学校インターンシップ体験	2通	2					○	1								
	小計(1科目)	—	2	0	0	—		1	0	0	0	0					
専攻専門科目	幼稚園教育専門科目(幼児教育)	家庭地域連携の政策	4前		2		○								兼1		
		就学前の教育学	2前	2			○								兼2	オムニバス	
		表現指導演習Ⅰ	3後	1				○							兼1		
		表現指導演習Ⅱ	4前	1				○							兼1		
		表現指導基礎演習Ⅰ	2前	1				○			1						
		表現指導基礎演習Ⅱ	2後	1				○			1						
		保育とダイバーシティ	3後		2			○							兼2	兼中・オムニバス	
		保育内容実践演習Ⅰ(からだリズム)	3後		1			○							兼2		
		保育内容特講	4前		2			○			1						
		幼児教育学特講	4前		2			○			1						
		幼児教育研究調査法Ⅰ	2前		1			○			1						
		幼児教育研究調査法Ⅱ	2後		1			○			1						
		幼児教育実践研究Ⅰ	3前		1				○			1				集中	
		幼児教育実践研究Ⅱ	3後		1				○			1				集中	
		幼児教育実践研究Ⅲ	4前		1				○		1	2				集中	
		幼児教育実践研究Ⅳ	4後		1				○		1	2				集中	
		幼児教育実践総論	1前		2			○							兼2	兼中・オムニバス	
		幼児教育分析演習	3後		1				○						兼2		
		幼児心理学特講	1前		2			○			1						
		保育内容実践演習Ⅱ(いのちとつながり)	3後		1				○						兼2	オムニバス	
		保育内容実践演習Ⅲ(ふしぎとアート)	3前		1				○						兼2	オムニバス	
		保育内容実践演習Ⅳ(かたりとドラマ)	3前		1				○						兼2	オムニバス	
		保育内容実践演習Ⅴ(うたとあそび)	3前		1				○						兼2	オムニバス	
		幼児教育プロジェクト演習Ⅰ	3前		1				○		1	2					
		幼児教育プロジェクト演習Ⅱ	3後		1				○		1	2					
		幼児教育探究演習Ⅰ	4前		1				○		1	2					
		幼児教育探究演習Ⅱ	4後		1				○		1	2					
	小計(27科目)	—	19	15	0	—		1	2	0	0	0		兼19			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専攻専門科目	小学校教科専門科目（幼児教育）	音楽	1前	2					○		1						兼1 兼1 兼1 兼2 オムニバス オムニバス オムニバス 兼1
		図画工作 I	1前	1					○		1						
		図画工作 II	1後	1					○		1						
		体育 I	1前	1					○								
		体育 II	1後	1					○								
		国語 I	1前	1			○			1							
		国語（書写）II	1後	1					○		1						
		算数	1前	2			○				1						
		生活	1後	2			○										
		英語	3前	2			○			1							
		ピアノ表現演習 I	1前	1					○		1						
		ピアノ表現演習 II	1後	1					○		1						
		社会	2前	2			○									兼2	
		理科A	2後	2			○			2						オムニバス	
		理科B	2後	2					○	1	1					オムニバス	
		家庭	2前	2			○									兼1	
		小計（16科目）	—	16	8	0			—	5	6	0	0	0		兼6	
小学校教科専門科目（小学校教育）	小学校教科専門科目（小学校教育）	国語 I	1前	1			○			1						兼1 オムニバス オムニバス オムニバス 兼1 兼1	
		国語（書写）II	1後	1					○								
		社会	1前	2			○			2							
		算数	1前	2			○			1							
		理科A	1後	2			○			2							
		理科B	1後	2					○	1	1						
		生活	1後	2			○										
		音楽	1後	2					○	1							
		図画工作 I	1後	1					○		1						
		図画工作 II	2前	1					○		1						
		家庭	2前	2			○										兼1
		体育 I	1前	1					○		1						
		体育 II	1後	1					○		1						
英語	3前	2			○			1									
小計（14科目）	—	18	4	0			—	9	3	0	0	0		兼3			
系列専門科目	学 校 へ 小 研 育） 教 小 研	課題研究 I	4前	1				○		1							
		課題研究 II	4後	1				○		1							
	教 職 専 門 系 列 （ 小 学 校 教 育 ）	教育学研究 I	3前		2				○			1					
		教育学研究 II	3後		2				○			1					
		特別支援教育研究 I	3前		2				○			1					
		特別支援教育研究 II	3後		2				○			1					
		学校臨床心理学	3後		2			○		1							
		心理学研究法 I	3前		2				○		1						
		心理学研究法 II	3後		2				○		1						
		学びつづける教師論	4前		2			○		1							
		学校づくりと授業づくり	4前		2			○		1							
		心理学特講	3前		2			○		1							
		メディア・エデュケーション	3後		2			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
系列専門科目	学校インターンシップ I	3通		2				○	1						集中
	学校インターンシップ II	4通		2				○	1						
	海外教育実践研究	3前		2				○	1						
	野外活動研究	3後		2			○	1							
	ものづくり教育研究 I	3前		2			○				1				
	ものづくり教育研究 II	3後		2			○				1				
	ICT教育の実践研究	3後		2			○				1				
	場面指導とロールプレイ	4前		2			○							兼1	
教科教育系列 (小学校教育)	英語科学習指導研究 I	3後		2				○	1						
	英語科学習指導研究 II	4前		2				○	1						
	英語科学習指導研究	4前		2				○	1						
	音楽科学習指導研究 I	3後		2				○	1						
	音楽科学習指導研究 II	4前		2				○	1						
	音楽実技 I	3前		1				○	1						
	音楽実技 II	3後		1				○	1						
	音楽実技 III	4前		1				○	1						
	音楽実技 IV	4後		1				○	1						
	音楽演奏研究 I	4前		2				○	1						
	音楽演奏研究 II	4後		2				○	1						
	国語科学習指導研究 I	3後		2				○	1						
	国語科学習指導研究 II	4前		2				○	1						
	自然の科学	3後		2			○		1						
	自然の科学 I	3後		2			○		1						
	自然の科学 II	4前		2			○		1						
	数学・数学教育実践	3後		2				○			1				
	基礎数学	3後		2				○			1				
	理科実験の指導法 I	3後		2				○	1						
	理科実験の指導法 II	4前		2				○	1						
	社会科学習指導研究 I	3後		2				○	1						
	社会科学習指導研究 II	4前		2				○	1						
	数学・数学教育演習	4前		2				○			1				
	数学入門	3前		2			○				1				
	図画工作科学習指導研究	4前		2				○			1				
	図画工作科学習指導演習	4後		2				○			1				
	学校保健学	3前		2				○							兼1
保健指導論	3後		2				○							兼1	
体育科学習指導研究	4前		2				○			1					
生活科学	3後		2				○							兼1	
小計 (51 科目)		—	2	94	0		—		8	5	1	0	0	兼4	
自由選択科目	取得科目	学校経営と学校図書館	3前	2			○							兼1	メディア
	図書館メディアの構成	3前	2			○								兼1	メディア
	学習指導と学校図書館	3後	2			○								兼1	メディア
	読書教育と図書館	3前	2			○								兼1	メディア
	情報メディアの活用	3前	2			○								兼1	メディア
	小計 (5 科目)		—	0	10	0		—		0	0	0	0	0	兼3

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	卒業研究	4通	4				○		10	10	1			
	合計 (296 科目)	—	162	363	0		—		10	10	1	0	0	兼 181
学位又は称号		学士 (教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

1 基本理念

大阪教育大学は、「我が国の先導的な教員養成大学として、教育の充実と文化の発展に貢献し、とりわけ教育界における有為な人材の育成を通して、地域と世界の人々の福祉に寄与する大学であることを使命とする。」を基本理念とし、第三期中期目標においては、「大阪教育大学は、教員養成及び教育・学習支援人材養成の広域的拠点として、学長のリーダーシップのもと全学的な改革に取り組み、我が国の教育界を牽引するグローバル教育人材を養成する。」ことを目標としつつ、具体的に次のように定めている。

① 義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域的役割をめざし、我が国の学校教員の質の向上に貢献するため、実践型教員養成機能への質的転換を行う。

② 理数系に重点を置いた中等教育教員の養成等、高度な専門的知識・指導力を有するスクールリーダー等の高度専門職業人たる教員の養成機能をさらに強化する。

③ 大学全体の教員養成及び教育・学習支援人材養成の機能の充実・強化を支えるため、グローバル化に対応した教養教育の質的充実を図る。

④ 現代教育課題を理解し、汎用基礎力及び協働力をそなえた教育・学習支援分野への人材養成を進める。

⑤ 附属学校や教育委員会等と協働して学校における実践的課題解決に資する研究活動を行うとともに、我が国の教員の資質能力向上に寄与する等、教員の研究活動等を通じて積極的な社会貢献活動を行う。

また、本学の教員養成課程と新たに設置する教育協働学科では、カリキュラムや実際の教育指導面での連携を強化するとともに、研究活動、学校支援、国際協力、地域連携等においても協働の関係を構築していく。

このようにして、本学が、我が国の教員養成全体のニーズや課題を主体的に受け止めるとともに、先導的かつ創造的な教育研究活動を行うことを通じて、地域(大阪府を含む広域)をはじめとして、全国の学校現場や国公立大学などへ還元できるようにすることが、今回の教育組織改革の基本方針である。

2 設置の背景・必要性

(1) 本学の現状と課題から

(ア) 教員養成課程

教員養成課程においては、平成22年度に本学教員養成課程の強みである教育学・心理学・道徳教育学・各教科教育について機能強化するため、小学校教員養成課程・中学校教員養成課程を統合して学校教育教員養成課程として教育科学専攻と各教科教育専攻(小学校コースと中学校コースからなる)を設けた。また、幼稚園教員養成課程・特別支援教員養成課程・養護教諭養成課程については、従来の課程をそのまま継続した。

さらに、今日的な教育課題に対応するためのカリキュラム改革として、教職基礎科目と教職教養科目を設けるとともに、グローバルなコミュニケーション力の強化のため、共通基礎科目の『英語IIa』、小学校教科専門科目の『英語』、教職基礎科目の『教職のための英語』の必修を進め、教職実践力強化のために『学校教育サポート体験』を新設している。その結果、平成26年度卒業者のうち進学志望者を除いて、74%が教員に採用されるにっており、教育委員会などからの本学出身者への評価も一定の水準を維持している。例えば、大阪府立教職コンソーシアムとの意見交換会では、本学卒の教員は学校をリードする人材が多いとして評価されており、4年間積み上げ方式の教育実習や教職基礎科目・教職教養科目などが成果をあげていると考えられる。

一方で、ニーズに見合った募集定員への見直しが不十分で、志願倍率が2倍を切る専攻・コースがあること、教員としての基礎力が弱い部分があることに加え、教職実践力を高める取り組みに関しても一層の充実が必要である。また、学校現場で増加している中国・ブラジル・ベトナム出身の子どもに対応できる教員や海外生活の経験のある教員の養成など、教育の国際化についてはこれまでの取り組みをさらに強化する必要がある。今後、大阪府や大阪市の教員採用数が減少することを見据えて、資質能力が高く競争力を持った教員の養成が喫緊の課題となっている。

(イ) 第二部小学校教員養成課程

第二部小学校教員養成課程(夜間学部)は、昭和29年に5年課程として発足し、短期大学卒の学校教員が学士を取得することを主目的として、3年次編入課程も併せて設置された。その後、平成15年度には、バブル崩壊後の不景気な社会状況に対応して、4年制大学を卒業した社会人が教員になるための再チャレンジコースとして3年次編入課程に学士コースが設けられるとともに、1年次学生として働きながら学ぶ学生を受け入れることで、これらの多様な学びのニーズに応えてきた。

こうしたなかで、特別教育実践研究(学校インターンシップ)科目を導入するなどにより、学生の教職実践力を高めつつ、特定の専門分野にピークを置かずし全教科・領域を総合的に学びながら、多様な人間の交わりや交流を重んじ、人間として総合力のある実践型の教員養成を展開してきた。その結果、入学時点では、大学入試センター試験の平均得点率が、昼間の教員養成課程(第一部)に比べて低いにも関わらず、教員採用試験の採用率においては、第一部に匹敵する成果をあげてきた。

一方で、近年、短期大学の4年制大学への転換が進み、学士取得を目的とした3年次編入志望者が減少するとともに、学士コースの志望者も減少してきた。さらに、1年次入学生に関しても、いわゆる“働きながら学ぶ”という学生が減った結果、その9割がアルバイトであり、正規に働いている学生は1割に満たない。3年次編入学生に関しては、平成19年度編入学試験までは志願者倍率も2倍を超え、卒業時の就職状況も顕著であったが、平成20年度以降編入学試験で志願倍率が2倍を切るようになってから入学者選抜機能が十分に働かず、教員採用試験合格者が減少し続けた。

このような社会的なニーズの変化に対応しながら学生の学びの質保証を行うためには、すでにその役割が変化している3年次編入の募集定員を減らしながら、1年次入学定員を維持しつつ学びの多様性を確保することが必要である。また、これまでの第二部の特徴であり成果をあげてきた、特定の専門分野にピークをおかず、全教科・領域にまたがる総合型の教員の養成を目指しながら、多様な人間の交わりや交流を重んじ、総合力のある実践型の教員養成を展開するという方向性をさらに追求する必要がある。

(2) 地域的・社会的な要請から

(ア) 地域の課題

少子化の進行や団塊世代の退職ピークの終了から、近畿各府県の小学校教員採用数は、平成30年以降、急激に減少することが予想されている。また近年、近畿地区の私立大学では教育学部の設置が相次ぎ、過去6年間で入学定員は3000人から4500人まで増加し(国立大学の教員養成系は1700人程度)、競争環境が激化している。

学校現場においては、数多くの課題が山積しており、各教育委員会ではこれらに対応できる優秀な教員の採用を望んでいる。本学のカリキュラムや教育内容の見直しを進め、学校現場のニーズに対応できる資質能力を持った教員を養成することが急務となっている。

大阪など近畿圏における教育の課題としては、児童生徒の多様化(貧困化)への対応、若手教員の育成、特別支援についての理解や対応が可能な資質能力の獲得、理数系教員の不足の解消などが指摘されている。また、幼稚園と小学校の接続や、小学校と中学校の接続、小中一貫教育など複数の学校種での教育や異なる学校種の接続段階の教育ができる教員、特別支援教育の基礎的な知識・技能を持つ教員の養成が強く期待されている。このため、教員需要が減少する中でも、これらの教員へのニーズは非常に大きなものがある。

(イ) 全国の課題

中央教育審議会では、平成27年12月に、初等中等教育分科会の教員養成部会の議論を踏まえて、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の答申がなされた。また、初等中等教育分科会及び生涯学習分科会における議論を踏まえて、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」の答申も示された。あわせて、初等中等教育分科会のチームとしての学校・教職員在り方に関する作業部会において、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」についても取りまとめられ、さらには、教育課程企画特別部会においては次期の学習指導要領改訂に関する検討が進んでいる。

これらの動きを総合的にとらえれば、現在、我々は、日本の教育システムの大きな転換点に立っていることが分かる。これらの答申においては、教員養成に関しては、教育委員会と十分な連携を図りながら、教員研修・教員採用・教員養成を総合的に改革していくことが求められており、地域のニーズを踏まえて、今日的な教育課題に率先して取り組み、他大学のモデルとなる活動を創生することが必要とされている。また、学校と地域の連携や協働をさらに推進するための組織的な取り組みの必要性が示されているが、そのためのキーワードの1つがチーム学校であり、教員は、教員以外の専門スタッフと連携・分担しながら、学校の教育力・組織力を向上させ、一人一人の子供の状況に応じた教育を実現する必要がある。

3 初等教育教員養成課程の必要性と目指すもの

本学のミッションの再定義では、「教員養成分野は、教育委員会等との連携等により義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域的拠点的作用を目指すことを基本的な目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図り、我が国の学校教員の質の向上に貢献する」ことを明示し、具体的な取組として、教員就職率の確

保(学士課程65%)、学士課程の実践型移行などを旨の記載をしている。今回の教育組織改革は、これらの内容を数値目標も含めて実現できるものとする。
 また、国立大学改革プランやミッションの再定義の他にも、「グローバル化」や「小中一貫校の制度化」、「チーム学校の推進」など学校教育に関する様々な制度改革が進められようとしており、こうした状況も踏まえつつ、前述の第3期中期目標を設定し、「我が国の教育界を牽引するグローバル教育人材」の養成に向けた取組を進めている。大阪教育大学のこれまでの活動や課題を踏まえ、教員養成機能を強化するために教員養成課程及の組織改革を進め、地域や全国の教育課題に対応する教員を輩出する必要がある。

本学では、国の政策や全国的な教育課題及び情勢の把握とともに、大阪府・大阪市・堺市教育委員会をはじめとした近隣自治体の教育委員会との連携協議会や、教育委員会幹部職員及び大阪府内小・中・高の校長会会長などによる大阪教育大学への提言委員会、府立高校教職コンソーシアムとの意見交換会等により、近隣の学校現場の課題・ニーズをも恒常的に把握し、教育の質の向上につなげている。

天王寺地区の初等教育教員養成課程では、幼児教育専攻と小学校教育専攻(昼間コース)により、幼稚園から小学校への接続性についての理解の深い教員養成の強化を図る。これにより、小学校教員養成は、その量的規模を縮小しながら、質的に他大学を凌駕する内容を実現するため、幼稚園教員養成と連携しながら、全教科・領域と今日的な教育課題(ICT、発達障害、多文化共生、英語)への対応力を養成する総合教育型の初等教育教員養成課程を天王寺キャンパスに集約して展開する。

初等教育教員養成課程では、地域や全国的な教育課題である「教育のICT化」、「グローバル化」「児童生徒の多様化(特別支援の需要拡大)」、「複数校種免許への対応」、「道徳教育の充実」などに対応する組織とすることを旨とするものがある。

II 教育課程編成の考え方・特色

1 教育課程編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

初等教育教員養成課程	教養基礎科目	共通基礎科目			教職基礎科目	教職関連科目				専攻専門科目			自由選択科目	卒業研究	計
	分野別科目・総合科目	言語科目	体育科目	ICT科目		教職専門科目	保育内容指導法科目	教科教育法科目	学校インターンシップ科目	幼稚園教育専門科目	小学校教科専門科目	系列・専攻専門科目			
幼児教育	16	8	2	3	8	25	10	—	2	24	16	—	10	4	128
(小学校)教育	16	8	2	3	8	23	—	20	2	—	20	14	8	4	128

各専攻において学生にどのような能力を習得させるのかについては、以下のとおりである。

(幼児教育専攻)

幼児教育についての知識と技能を深めるとともに、幼稚園教育と小学校低学年段階の教育において、幼稚園と小学校が連携し、幼児期にふさわしい主体的な遊びを中心とした総合的な指導から、児童期にふさわしい学習等の指導への移行を円滑にできる能力を習得させる。

(小学校教育専攻)

小学校の全教科・領域に関する幅広い知識・技能・指導力や今日的な教育課題(ICT、発達障害、多文化共生、英語)などに対応する能力と共に、幼児教育からの接続を理解した現場実践力を習得させる。

2 教育課程編成の特色

(1) 教養教育を中心としたカリキュラム改革

学位プログラムを導入し、養成する人材像を明確にした上で、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの整合性を持たせながら、どのような資質能力を育成するかを明らかにする。その上で学士教育を一貫性のあるプログラムとして構築することで、教員集団が全体として組織的な教育を展開することを目指す。また、プログラムの到達目標に則した評価を実施することで、プログラムの改善を図る。

教養教育においては、「汎用基礎力=21世紀型能力」と「多様性理解」を2つの柱として設定した上で、各専門分野の学びを縦系とする際の「基礎力」を確実に身に付けるとともに、アクティブ・ラーニングなどの手法を十分に取り入れながら、これを横断する横系としての「思考力」や「実践力」の獲得を目標とする。

汎用基礎力=21世紀型能力については、アクティブ・ラーニングを可能にするコミュニケーション力や批判的思考力に重点において、新しい時代の教育への対応を図るものである。また、大阪教育大学では、グローバル人材養成を改革の柱と設定しており、その1つが多様性(ダイバーシティ)理解である。ダイバーシティとは企業などにおける多様性の受容による組織の活性化をいうが、本学ではグローバル時代の教育の鍵が多様性の受容にあると考え、これまで本学で培われてきた人権教育の蓄積を多様性(ダイバーシティ)理解という観点で発展させて教養教育の基礎に置くものである。

教養基礎科目の分野別科目には、これまでの6領域(思索と芸術、国際と地域、歴史と社会、人間と生活、生命と環境、数理情報と自然)に加えて、「教育とキャリア」の領域を設定し、様々な現代的な教育課題を契機として大学の学びへの関心と意欲を引き出すことを、本学が養成する人材のキャリア形成における出発点として教養基礎科目に位置づけて学ぶ。

教員養成課程の学生については、「教育とキャリア」の領域から2単位以上の選択履修を必要とする。さらに、教員免許を取得する学生については、『日本国憲法』(2単位)、『ダイバーシティと人権』(2単位)を必修とする。

汎用基礎力=21世紀型能力への対応として、教養基礎科目の総合科目に、基盤教養科目を設定し、『資料・情報利用法』、『クリティカル・シンキング入門』、『メディア・リテラシー演習』、『コンピュータを使った統計入門』、『科学的・批判的思考の実践』、『アクティブ・ラーニング入門』などの科目を開設する。また、多様性理解への対応として、教養基礎科目の総合科目に、多様性理解科目を設定し、多文化共生の社会をめざして、『「障害」者と人権』、『障がい者支援入門』、『ジェンダーとセクシュアリティ』、『共生社会論』、『国際理解』、『外国人児童生徒教育』などの科目を設定する。

教員養成課程においては、教職基礎科目として、『特別なニーズのある子どもの教育』、『人権教育論』、『学校安全』の3科目6単位を必修とする。なお、これに加えて、初等教育教員養成課程(小学校教育専攻夜間コースを除く)では、『幼小連携教育論』(2単位)を必修とする。
 「我が国の教育界を牽引できるグローバル教育人材の養成」のため、本学では、国際化に対応した教養教育の質的充実として、共通科目の言語科目を8単位を必修にする。言語科目は原則として1単位科目とするが、各言語のⅡa及びⅡb科目や外国語コミュニケーション科目については、eラーニングなどを組み合わせながら2単位化し、言語科目全体としての充実を図る。

また、共通科目にICT科目(3単位)を導入することで、すべての学生の獲得する基本的な能力としてICT活用能力を位置づける。これは教職課程認定上の情報機器の操作に対応する科目となる。全学生に対しコンピュータの必修化を目指すことで、ICT科目におけるICT基礎の授業を展開するとともに、語学学習のeラーニング化を促進することに加えて、様々な科目におけるアクティブ・ラーニングの促進を図る。このため、全学的な無線LAN環境やセキュリティ管理の体制を整えるとともに、本学で開発したSNSであるスマートフォリオを活用し、教育実習のパフォーマンス評価(※注)におけるICT活用を推進する。
 (※注)パフォーマンス評価とは、知識や技能を使いこなすことを求めるような評価方法であり、教育実習の場面で指示される「印象に残った児童・生徒の交流を3名記録する」などの具体的な活動に対する評価を行うものである。

(2) 初等教育教員養成課程のカリキュラムの特徴

初等教育教員養成課程では、幼児教育と小学校教育の連携を深めることができるカリキュラムを設定するとともに、全教科にわたる総合的な力量をバランスよく形成することを旨とした科目設定をし、総合的な実践力のある教員養成を行う。

特に「教職基礎科目」においては、『特別なニーズのある子どもの教育』を必修(2単位)とし、『インクルーシブ教育論』、『発達障害教育』、『発達障害指導論』を選択科目として開講する。

また、学校インターンシップ科目として、『幼児教育インターンシップ』または『学校インターンシップ体験』を必修(2単位)とし、小学校教育専攻では、その他に、『学校インターンシップⅠ・Ⅱ』などを設け、選択できることとしている。学校インターンシップでは、天王寺キャンパスの地の利を生かして、学校現場における活動時間を十分に確保することで、教職実践力の獲得を目指す。また、幼児教育と小学校教育の連携についての十分な理解を図るために、幼児教育専攻と小学校教育専攻昼間コースでは教職基礎科目に『幼小連携教育論』(2単位必修)を設定するとともに、系列専門科目の教職実践系列において、場面指導とロールプレイ、学び続ける教師論などによって幼稚園から小学校への接続を踏まえた内容を指導する。

なお、幼児教育専攻と小学校教育専攻(昼間コース)の1年次と2年次は、柏原キャンパスで教養基礎科目、共通基礎科目、教職基礎科目、教職関連科目などを中心に履修し、3年次以降、天王寺キャンパスにおいて、教職関連科目、専攻専門科目などを中心に履修する。柏原キャンパスを活用することで、教職基礎科目や共通基礎科目でできるだけ多様な科目を選択可能にすることや、体育施設や幼児教育関係の実技関係施設などで充実した教育を確保する。

3 初等教育教員養成課程の名称

本課程の名称を初等教育教員養成課程とする。これは本課程が幼稚園から小学校への接続性理解を重視し、幼稚園教員養成と小学校教員養成が連携しつつ、全教科・領域と今日的教育課題に対応する総合的な力量を持った教員を養成する初等教育に特化したものであることから、初等教育教員養成課程という名称とした。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【幼児教育専攻】 教養基礎科目から16単位、共通基礎科目から13単位、教職基礎科目から8単位、教職関連科目から37単位、専攻専門科目から40単位以上を修得し、128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：26単位(各学期))</p>	1学年の学期区分	2学期
<p>【小学校教育専攻(昼間コース)】 教養基礎科目から16単位、共通基礎科目から13単位、教職基礎科目から8単位、教職関連科目から45単位、専攻専門科目から34単位以上を修得し、128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：26単位(各学期))</p>	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基礎科目	科目目育	小計 (2 科目)	—	2	0	0	—			0	1	0	0	0	
	ICT科目目	ICT基礎 a	1前	2				○				1			
		ICT基礎 b	1後	1					○			1			
		小計 (2 科目)	—	3	0	0	—			0	0	1	0	0	
教職基礎科目		特別なニーズのある子どもの教育	2前	2			○				1				
		人権教育論	3前	2			○								兼1
		学校安全	4前	2			○								兼1
		保育と子ども	3前		2		○								兼1
		インクルーシブ教育システム基礎論	1前		2		○								兼1
		発達障害教育	2前		2		○								兼1
		発達障害指導論	4前		2		○								兼1
	小計 (7 科目)	—	6	8	0	—			0	1	0	0	0	兼6	
教職関連科目	教職専門科目	教職入門	1前	2			○				1				
		教育総論	2前	2			○				1				
		発達と学習の心理学	3前	2			○				1				
		学校の役割と経営	3前	2			○								兼1
		教育実践論	4前	2			○				1				
		道徳教育論	4前	2			○					1			
		生徒指導・進路指導論	3前	2			○								兼1
		教育相談の心理学	3後	2			○				1				
		教育実習 I	4後	2					○						兼1
		教育実習 II	5前	3					○						兼1
	教職実践演習 (小)	5後	2					○		2	2			集中	
小計 (11 科目)	—	23	0	0	—			3	2	0	0	0	兼3		
初等教科教育法科目		初等国語科教育法(書写を含む。)	3前	2			○			1					
		初等社会科教育法	3前	2			○								兼1
		算数科教育法	4前	2			○				1				
		初等理科教育法	3後	2			○								兼1
		生活科教育法	2後	2			○								兼1
		初等音楽科教育法	4前	2			○				1				
		図画工作科教育法	3後	2			○				1				
		初等家庭科教育法	4後	2			○								兼1
		体育科教育法	4後	2			○				1				
	初等英語科教育法	3後	2			○				1					
小計 (10 科目)	—	20	0	0	—			1	5	0	0	0	兼4		
ブロン学校目ツイ	学校インターンシップ体験	2通	2					○		1					
	小計 (1 科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0		
専攻専門科目	小学校教科専門科目	国語 (書写を含む。)	1前	2			○			1					
		社会 I	1前	2			○			2					オムニバス
		社会 II	2前	2			○			2					オムニバス
		算数	1前	2			○			1					
		理科 I	1前	2				○		2					オムニバス
		理科 II	2前	2				○		1	1				オムニバス
		生活	2前	2			○								兼1
音楽 I	2前	1					○	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻専門科目	小学校教科専門科目	音楽Ⅱ	2後	1					○	1						兼1
		図画工作Ⅰ	2前	1					○		1					
		図画工作Ⅱ	2後	1					○		1					
		家庭	2前	2			○									
		体育Ⅰ	2前	1					○		1					
		体育Ⅱ	2後	1					○		1					
		英語	3前	2			○			1						
		小計（15科目）	—	24	0	0			—	7	3	0	0	0		
系列専門科目	究課題研	課題研究Ⅰ	5前	1				○	1						兼1	
		課題研究Ⅱ	5後	1				○	1							
	教職専門系列	教育学研究Ⅰ	3後		2				○		1					
		教育学研究Ⅱ	4前		2				○		1					
		メディア・エデュケーション	3後		2		○									
		特別支援教育研究	4前		2				○		1					
		心理学特講	4前		2		○			1						
		学びつづける教師論	5前		2		○			1						
		学校づくりと授業づくり	5前		2		○			1						
		学校臨床心理学	3後		2		○			1						
		心理学研究法Ⅰ	3後		2				○		1					
		特別支援教育研究Ⅱ	4前		2				○			1				
	心理学研究法Ⅱ	4前		2				○		1						
	実習実践系列	学校インターンシップⅠ	3通		2				○	1						
		学校インターンシップⅡ	4通		2				○	1						
		学校インターンシップⅢ	5通		2				○	1						
		海外教育実践研究	3前		2				○	1						
		野外活動研究	3後		2			○		1						
		場面指導とロールプレイ	4前		2				○				1			
		ものづくり教育研究Ⅰ	3後		2				○				1			
ものづくり教育研究Ⅱ		4前		2				○				1				
ICT教育の実践研究	4後		2				○				1					
教科教育系列	英語科学習指導研究	4前		2				○	1							
	音楽演奏研究Ⅰ	5前		2				○	1							
	音楽演奏研究Ⅱ	5後		2				○	1							
	音楽実技Ⅰ	3前		1				○	1							
	音楽実技Ⅱ	3後		1				○	1							
	音楽実技Ⅲ	4前		1				○	1							
	音楽実技Ⅳ	4後		1				○	1							
	学校保健学	3前		2		○								兼1		
	工芸	3後		1				○		1						
	国語科学習指導研究Ⅰ	3後		2				○	1							
	国語科学習指導研究Ⅱ	4前		2				○	1							
	自然の科学Ⅰ	3後		2		○			1							
自然の科学Ⅱ	4前		2		○			1								
数学・数学教育研究Ⅰ	3後		2				○			1						
数学・数学教育研究Ⅱ	4前		2				○			1						

集中

兼1

兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
系列専門科目	教科教育系列	図画工作科学習指導演習	4前	2			○			1					兼1
		図画工作科学習指導研究	4後	2			○			1					
		生活科学	3後	2			○								
		体育科学習指導研究	4前	2			○			1					
		メディアと造形表現	3前	2			○			1					
		理科実験の指導法Ⅰ	3後	2			○			1					
		理科実験の指導法Ⅱ	4前	2			○			1					
		基礎数学	3後	2			○			1					
		社会科学習指導研究Ⅰ	3後	2				○		1					
		社会科学習指導研究Ⅱ	4前	2				○		1					
		保健指導論	3後	2			○								
		英語科学習指導研究Ⅰ	3後	2				○		1					
		英語科学習指導研究Ⅱ	4前	2				○		1					
		数学入門	3前	2			○			1					
		自然の科学	3後	2			○			1					
		音楽科学習指導研究Ⅰ	3後	2				○		1					
音楽科学習指導研究Ⅱ	4前	2				○		1							
小計（ 54 科目）		—	2	99	0	—			8	5	1	0	0	兼4	
自由選択科目	学校図書館司書教諭資格	学校経営と学校図書館	2前	2		○								兼1	メディア
		学校図書館メディアの構成	2前	2		○								兼1	メディア
		学習指導と学校図書館	2後	2		○								兼1	メディア
		読書教育と図書館	2前	2		○								兼1	メディア
		情報メディアの活用	2前	2		○								兼1	メディア
		小計（ 5 科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼3
卒業研究		5通	4						10	10	1				
合計（ 145 科目）		—	96	165	0	—			10	10	1	0	0	兼36	
学位又は称号		学士（教育学）		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

1 基本理念

大阪教育大学は、「我が国の先導的な教員養成大学として、教育の充実と文化の発展に貢献し、とりわけ教育界における有為な人材の育成を通して、地域と世界の人々の福祉に寄与する大学であることを使命とする。」を基本理念とし、第三期中期目標においては、「大阪教育大学は、教員養成及び教育・学習支援人材養成の広域的拠点として、学長のリーダーシップのもと全学的な改革に取り組み、我が国の教育界を牽引するグローバル教育人材を養成する。」ことを目標としつつ、具体的に次のように定めている。

① 義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域的役割をめざし、我が国の学校教員の質の向上に貢献するため、実践型教員養成機能への質的転換を行う。

② 理数系に重点を置いた中等教育教員の養成等、高度な専門的知識・指導力を有するスクールリーダー等の高度専門職業人たる教員の養成機能をさらに強化する。

③ 大学全体の教員養成及び教育・学習支援人材養成の機能の充実・強化を支えるため、グローバル化に対応した教養教育の質的充実を図る。

④ 現代教育課題を理解し、汎用基礎力及び協働力をそなえた教育・学習支援分野への人材養成を進める。

⑤ 附属学校や教育委員会等と協働して学校における実践的課題解決に資する研究活動を行うとともに、我が国の教員の資質能力向上に寄与する等、教員の研究活動等を通じて積極的な社会貢献活動を行う。

また、本学の教員養成課程と新たに設置する教育協働学科では、カリキュラムや実際の教育指導面での連携を強化するとともに、研究活動、学校支援、国際協力、地域連携等においても協働の関係を構築していく。

このようにして、本学が、我が国の教員養成全体のニーズや課題を主体的に受け止めるとともに、先導的かつ創造的な教育研究活動を行うことを通じて、地域(大阪府を含む広域)をはじめとして、全国の学校現場や国公立大学などへ還元できるようにすることが、今回の教育組織改革の基本方針である。

2 設置の背景・必要性

(1) 本学の現状と課題から

(ア) 教員養成課程

教員養成課程においては、平成22年度に本学教員養成課程の強みである教育学・心理学・道徳教育学・各教科教育について機能強化するため、小学校教員養成課程・中学校教員養成課程を統合して学校教育教員養成課程として教育科学専攻と各教科教育専攻(小学校コースと中学校コースからなる)を設けた。また、幼稚園教員養成課程・特別支援教員養成課程・養護教諭養成課程については、従来の課程をそのまま継続した。

さらに、今日的な教育課題に対応するためのカリキュラム改革として、教職基礎科目と教職教養科目を設けるとともに、グローバルなコミュニケーション力の強化のため、共通基礎科目の『英語Ⅱa』、小学校教科専門科目の『英語』、教職基礎科目の『教職のための英語』の必修を進め、教職実践力強化のために『学校教育サポート体験』を新設している。その結果、平成26年度卒業者のうち進学志望者を除いて、74%が教員に採用されるにっており、教育委員会などからの本学出身者への評価も一定の水準を維持している。例えば、大阪府立教職コンソーシアムとの意見交換会では、本学卒の教員は学校をリードする人材が多いとして評価されており、4年間積み上げ方式の教育実習や教職基礎科目・教職教養科目などが成果をあげていると考えられる。

一方で、ニーズに見合った募集定員への見直しが不十分で、志願倍率が2倍を切る専攻・コースがあること、教員としての基礎力が弱い部分があることに加え、教職実践力を高める取り組みに関しても一層の充実が必要である。また、学校現場で増加している中国・ブラジル・ベトナム出身の子どもに対応できる教員や海外生活の経験のある教員の養成など、教育の国際化についてはこれまでの取り組みをさらに強化する必要がある。今後、大阪府や大阪市の教員採用数が減少することを見据えて、資質能力が高く競争力を持った教員の養成が喫緊の課題となっている。

(イ) 第二部小学校教員養成課程

第二部小学校教員養成課程(夜間学部)は、昭和29年に5年課程として発足し、短期大学卒の学校教員が学士を取得することを主目的として、3年次編入課程も併せて設置された。その後、平成15年度には、バブル崩壊後の不景気な社会状況に対応して、4年制大学を卒業した社会人が教員になるための再チャレンジコースとして3年次編入課程に学士コースが設けられるとともに、1年次学生として働きながら学ぶ学生を受け入れることで、これらの多様な学びのニーズに応えてきた。

こうしたなかで、特別教育実践研究(学校インターンシップ)科目を導入するなどにより、学生の教職実践力を高めつつ、特定の専門分野にピークを置かずし全教科・領域を総合的に学びながら、多様な人間の交わりや交流を重んじ、人間として総合力のある実践型の教員養成を展開してきた。その結果、入学時点では、大学入試センター試験の平均得点率が、昼間の教員養成課程(第一部)に比べて低いにも関わらず、教員採用試験の採用率においては、第一部に匹敵する成果をあげてきた。

一方で、近年、短期大学の4年制大学への転換が進み、学士取得を目的とした3年次編入志望者が減少するとともに、学士コースの志望者も減少してきた。さらに、1年次入学生に関しても、いわゆる“働きながら学ぶ”という学生が減った結果、その9割がアルバイトであり、正規に働いている学生は1割に満たない。3年次編入学生に関しては、平成19年度編入学試験までは志願者倍率も2倍を超え、卒業時の就職状況も顕著であったが、平成20年度以降編入学試験で志願倍率が2倍を切るようになってから入学者選抜機能が十分に働かず、教員採用試験合格者が減少し続けた。

このような社会的なニーズの変化に対応しながら学生の学びの質保証を行うためには、すでにその役割が変化している3年次編入の募集定員を減らしながら、1年次入学定員を維持しつつ学びの多様性を確保することが必要である。また、これまでの第二部の特徴であり成果をあげてきた、特定の専門分野にピークをおかず、全教科・領域にまたがる総合型の教員の養成を目指しながら、多様な人間の交わりや交流を重んじ、総合力のある実践型の教員養成を展開するという方向性をさらに追求する必要がある。

(2) 地域的・社会的な要請から

(ア) 地域の課題

少子化の進行や団塊世代の退職ピークの終了から、近畿各府県の小学校教員採用数は、平成30年以降、急激に減少することが予想されている。また近年、近畿地区の私立大学では教育学部の設置が相次ぎ、過去6年間で入学定員は3000人から4500人まで増加し(国立大学の教員養成系は1700人程度)、競争環境が激化している。

学校現場においては、数多くの課題が山積しており、各教育委員会ではこれらに対応できる優秀な教員の採用を望んでいる。本学のカリキュラムや教育内容の見直しを進め、学校現場のニーズに対応できる資質能力を持った教員を養成することが急務となっている。

大阪など近畿圏における教育の課題としては、児童生徒の多様化(貧困化)への対応、若手教員の育成、特別支援についての理解や対応が可能な資質能力の獲得、理数系教員の不足の解消などが指摘されている。また、幼稚園と小学校の接続や、小学校と中学校の接続、小中一貫教育など複数の学校種での教育や異なる学校種の接続段階の教育ができる教員、特別支援教育の基礎的な知識・技能を持つ教員の養成が強く期待されている。このため、教員需要が減少する中でも、これらの教員へのニーズは非常に大きなものがある。

(イ) 全国の課題

中央教育審議会では、平成27年12月に、初等中等教育分科会の教員養成部会の議論を踏まえて、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の答申がなされた。また、初等中等教育分科会及び生涯学習分科会における議論を踏まえて、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」の答申も示された。あわせて、初等中等教育分科会のチームとしての学校・教職員在り方に関する作業部会において、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」についても取りまとめられ、さらには、教育課程企画特別部会においては次期の学習指導要領改訂に関する検討が進んでいる。

これらの動きを総合的にとらえれば、現在、我々は、日本の教育システムの大きな転換点に立っていることが分かる。これらの答申においては、教員養成に関しては、教育委員会と十分な連携を図りながら、教員研修・教員採用・教員養成を総合的に改革していくことが求められており、地域のニーズを踏まえて、今日的な教育課題に率先して取り組み、他大学のモデルとなる活動を創生することが必要とされている。また、学校と地域の連携や協働をさらに推進するための組織的な取り組みの必要性が示されているが、そのためのキーワードの1つがチーム学校であり、教員は、教員以外の専門スタッフと連携・分担しながら、学校の教育力・組織力を向上させ、一人一人の子供の状況に応じた教育を実現する必要がある。

3 初等教育教員養成課程の必要性と目指すもの

本学のミッションの再定義では、「教員養成分野は、教育委員会等との連携等により義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域的拠点的作用を目指すことを基本的な目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図り、我が国の学校教員の質の向上に貢献する」ことを明示し、具体的な取組として、教員就職率の確

保(学士課程65%)、学士課程の実践型移行などを旨とする。今回の教育組織改革は、これらの内容を数値目標も含めて実現できるものとする。
 また、国立大学改革プランやミッションの再定義の他にも、「グローバル化」や「小中一貫校の制度化」、「チーム学校の推進」など学校教育に関する様々な制度改革が進められようとしており、こうした状況も踏まえつつ、前述の第3期中期目標を設定し、「我が国の教育界を牽引するグローバル教育人材」の養成に向けた取組を進めている。大阪教育大学のこれまでの活動や課題を踏まえ、教員養成機能を強化するために教員養成課程及の組織改革を進め、地域や全国の教育課題に対応する教員を輩出する必要がある。

本学では、国の政策や全国的な教育課題及び情勢の把握とともに、大阪府・大阪市・堺市教育委員会をはじめとした近隣自治体の教育委員会との連携協議会や、教育委員会幹部職員及び大阪府内小・中・高の校長会会長などによる大阪教育大学への提言委員会、府立高校教職コンソーシアムとの意見交換会等により、近隣の学校現場の課題・ニーズをも恒常的に把握し、教育の質の向上につなげている。

天王寺地区の初等教育教員養成課程(夜間コース)では、幼稚園から小学校への接続性を意識した教員を養成する。また、全教科・領域と今日的な教育課題(ICT、発達障害、多文化共生、英語)への対応力を養成する総合教育型の初等教育教員養成課程を天王寺キャンパスに集約して展開する。なお、夜間の三年次編入は社会的ニーズの変化に対応して縮小するが、夜間コース全体では一定の規模を保ちながら、学びの多様性を引き続き確保する。

初等教育教員養成課程では、地域や全国的な教育課題である「教育のICT化」、「グローバル化」「児童生徒の多様化(特別支援の需要拡大)」、「複数校種免許への対応」、「道徳教育の充実」などに対応する組織とすることを旨とするものである。

II 教育課程編成の考え方・特色

1 教育課程編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

初等教育教員養成課程(夜間)	教養基礎科目	共通基礎科目			教職基礎科目	教職関連科目				専攻専門科目			自由選択科目	卒業研究	計
	分野別科目・総合科目	言語科目	体育科目	ICT科目		教職専門科目	保育内容指導法科目	教科教育法科目	学校インターンシップ科目	幼稚園教育専門科目	小学校教科専門科目	系列・専攻専門科目			
小学校教育(夜校教育)	16	8	2	3	6	23	—	20	2	—	24	12	8	4	128

(小学校教育専攻(夜間コース))

小学校の全教科・領域に関する幅広い知識・技能・指導力や今日的な教育課題(ICT、発達障害、多文化共生、英語)などに対応する能力と共に、社会経験を活かした現場実践力を習得させる。

2 教育課程編成の特色

(1) 教養教育を中心としたカリキュラム改革

学位プログラムを導入し、養成する人材像を明確にした上で、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの整合性を持たせながら、どのような資質能力を育成するかを明らかにする。その上で学士教育を一貫性のあるプログラムとして構築することで、教員集団が全体として組織的な教育を展開することを目指す。また、プログラムの到達目標に則した評価を実施することで、プログラムの改善を図る。

教養教育においては、「汎用基礎力=21世紀型能力」と「多様性理解」を2つの柱として設定した上で、各専門分野の学びを縦糸とする際の「基礎力」を確実に身に付けるとともに、アクティブ・ラーニングなどの手法を十分に取り入れながら、これを横断する横糸としての「思考力」や「実践力」の獲得を目標とする。

汎用基礎力=21世紀型能力については、アクティブ・ラーニングを可能にするコミュニケーション力や批判的思考力に重点を置いて、新しい時代の教育への対応を図るものである。また、大阪教育大学では、グローバル人材養成を改革の柱と設定しており、その1つが多様性(ダイバーシティ)理解である。ダイバーシティとは企業などにおける多様性の受容による組織の活性化をいうが、本学ではグローバル時代の教育の鍵が多様性の受容にあると考え、これまで本学で培われてきた人権教育の蓄積を多様性(ダイバーシティ)理解という観点で発展させて教養教育の基礎に置くものである。

教養基礎科目の分野別科目には、これまでの6領域(思索と芸術、国際と地域、歴史と社会、人間と生活、生命と環境、教理情報と自然)に加えて、「教育とキャリア」の領域を設定し、様々な現代的な教育課題を契機として大学の学びへの関心と意欲を引き出すことを、本学が養成する人材のキャリア形成における出発点として教養基礎科目に位置づけて学ぶ。

教員養成課程の学生については、「教育とキャリア」の領域から2単位以上の選択履修を必要とする。さらに、教員免許を取得する学生については、『日本国憲法』(2単位)、『ダイバーシティと人権』(2単位)を必修とする。

汎用基礎力=21世紀型能力への対応として、教養基礎科目の総合科目に、基盤教養科目を設定し、『言語表現とコミュニケーション』、『身体表現とコミュニケーション』などの科目を開設する。また、多様性理解への対応として、教養基礎科目の総合科目に、多様性理解科目を設定し、多文化共生の社会をめざして、『障がい者支援入門』、『ジェンダーとセクシュアリティ』などの科目を設定する。

教員養成課程においては、教職基礎科目として、『特別なニーズのある子どもの教育』、『人権教育論』、『学校安全』の3科目6単位を必修とする。なお、これに加えて、初等教育教員養成課程(小学校教育専攻夜間コースを除く)では、『幼小連携教育論』(2単位)を必修とする。
「我が国の教育界を牽引できるグローバル教育人材の養成」のため、本学では、国際化に対応した教養教育の質的充実として、共通科目の言語科目を8単位を必修にする。言語科目は1単位科目とする。

また、共通科目にICT科目(3単位)を導入することで、すべての学生の獲得する基本的な能力としてICT活用能力を位置づける。これは教職課程認定上の情報機器の操作に対応する科目となる。全学生に対しコンピュータの必携化を目指すことで、ICT科目におけるICT基礎の授業を展開するとともに、語学学習のeラーニングを促進することに加えて、様々な科目におけるアクティブ・ラーニングの促進を図る。このため、全学的な無線LAN環境やセキュリティ管理の体制を整えるとともに、本学で開発したSNSであるスマートフォリオを活用し、教育実習のパフォーマンス評価(*注)におけるICT活用を推進する。

(*注)パフォーマンス評価とは、知識や技能を使いこなすことを求めるような評価方法であり、教育実習の場面で指示される「印象に残った児童・生徒の交流を3名記録する」などの具体的な活動に対する評価を行うものである。

(2) 初等教育教員養成課程のカリキュラムの特徴

初等教育教員養成課程では、全教科にわたる総合的な力量をバランスよく形成することを目指した科目設定をし、総合的な実践力のある教員養成を行う。

特に「教職基礎科目」においては、『特別なニーズのある子どもの教育』を必修(2単位)とし、『インクルーシブ教育論』、『発達障害教育』、『発達障害指導論』を選択科目として開講する。

また、学校インターンシップ科目として、『学校インターンシップ体験』を必修(2単位)とし、その他に『学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ』などを設け、選択できることとしている。学校インターンシップでは、天王寺キャンパスの地の利を生かして、学校現場における活動時間を十分に確保することで、教職実践力の獲得を目指す。また、小学校教育専攻(夜間コース)では、幼児教育からの接続を理解するため、教職基礎科目にて『保育と子ども』を選択科目として開講する。

3 初等教育教員養成課程の名称

本課程の名称を初等教育教員養成課程とする。これは本課程が幼稚園から小学校への接続性理解を重視し、幼稚園教員養成と小学校教員養成が連携しつつ、全教科・領域と今日的な教育課題に対応する総合的な力量を持った教員を養成する初等教育に特化したものであることから、初等教育教員養成課程という名称とした。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【小学校教育専攻(夜間コース)】 教養基礎科目から16単位、共通基礎科目から13単位、教職基礎科目から6単位、教職関連科目から45単位、専攻専門科目から36単位以上を修得し、128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：26単位(各学期))	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要 (事前伺い) (教育学部教育協働学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養基礎科目	分野別科目 思索と芸術	日本人の宗教観	1前	2			○									兼1	集中
		平安朝文学世界への誘い	1前	2			○									兼1	
		コンサートへの誘い	1前	2				○		5	4						
		和歌の表現世界を知る	1前	2			○										
		読むための視点	1後	2			○			1							
		ドイツ文学を読む	1後	2			○			1							
		芸術理論：フランス近代美学から	1後	2			○			1							
		民族と音楽：東南アジアを中心に	1後	2				○		1							
		ユーラシア美術史	1後	2			○									兼1	
		アジアの中の日本美術史	1後	2			○									兼1	
		日本語史のイロハ	1後	2			○					1					
		教養と美	1後	2			○			7	8						
		比較文学論	1後	2			○			1							
日本語表現法	1後	2			○			1									
国際と地域	日本事情	1前	2			○			1							集中	
	海外文化研究	1前	2				○		1	1							
	国際関係論入門	1前	2			○									兼1		
	Cross-cultural Communication①	1前	1				○		1								
	Cross-cultural Communication②	1前	1				○		1								
	Japanese Culture①	1前・後	1				○		1								
	Japanese Culture②	1前・後	1				○		1								
	Media Studies①	1後	1				○		1								
	Media Studies②	1後	1				○		1								
	Discussion Skills①	1前	1				○		1								
	Discussion Skills②	1前	1				○		1								
	Academic Presentation Skills①	1後	1				○		2								
	Academic Presentation Skills②	1後	1				○		2								
	英語による教養①	1前	1				○								兼1		
	英語による教養②	1前	1				○								兼1		
	英語による教養③	1前	1				○								兼1		
英語による教養④	1前	1				○								兼1			
英語による教養⑤	1前	1				○								兼1			
英語による教養⑥	1前	1				○								兼1			
英語による教養⑦	1後	1				○								兼1			
英語による教養⑧	1後	1				○								兼1			
歴史と社会	日本国憲法	1前	2			○				1					兼1		
	部落問題概論	1前	2			○									兼1		
	持続発展教育と世界遺産	1前	2			○									兼1		
	日本美術の流れ	1前	2			○									兼1		
	地域から見る世界史	1前	2			○				1							
	地域史としての考古学	1後	2			○									兼1		
	日本科学技術史概論	1後	2			○			1								
	近現代外交史	1後	2			○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
教養基礎科目	歴史と社会	政治と社会	1後		2		○									兼1	メディア		
	分野別科目	人間と生活	ダイバーシティと人権	1後	2		○			1									
			現代消費社会論	1前		2		○			1								
			平和のための教育	1前		2		○			1								
			現代社会学の方法と実践	1前		2		○										兼1	
			現場に活かすスポーツ実践論	1前		2		○			1								
			健康科学への招待	1前		2		○			2	1							オムニバス
			生活環境をさぐる	1前		2		○			3								オムニバス
			地域連携学校教育入門ー現代社会を生きるー	1前		2		○										兼1	
			健康科学論	1前		2		○										兼1	メディア
			貨幣とわれわれの社会	1後		2		○										兼1	
			都市防災対策と防災教育	1後		2		○										兼1	メディア
			心理生理学	1後		2		○										兼1	メディア
			性倫理と性教育	1後		2		○										兼1	メディア
			野外教育論	1後		2		○										兼1	メディア
	対人コミュニケーションの心理学	1後		2		○				1									
	生命と環境	水と環境を考える	1前		2		○			1									
		生命と共生	1前		2		○										兼1		
		地球と災害	1前		2		○										兼1		
		DNAを中心とした生命科学	1後		2		○			1									
		はかつてなんぼー環境をはかる	1後		2		○			1									
		地球と環境	1後		2		○			1									
		ミクロの生物学入門	1後		2		○										兼1		
		大阪の環境と地球環境	1後		2		○										兼1		
		自然史博物館への招待	1後		2		○										兼1		
		生物学と医学の出会い	1後		2		○										兼1		
	暮らしの環境と地図	1前		2		○										兼1			
	持続可能な開発のための教育(ESD)概論	1後		2		○										兼1	メディア		
	数理情報と自然	ベクトルとその応用を理解する	1前		2		○			1									
		はかつてなんぼー一学校編	1前		2		○			1									
		科学常識を考える	1前		2		○			1									
		科学の基本	1前		2		○				1								
		論理と数理パズル	1前		2		○			1									
		歴史を変えた有機化合物	1後		2		○			1									
		体験しよう！かがく実験	1後		2			○		1									
		論理と数理パズル 上級編	1後		2		○			1									
	教育とキャリア	キャリアデザイン	1前		2		○										兼1		
		インターンシップとキャリア	1前		2		○										兼1		
		学校教育と著作権	1前		2		○										兼1		
		教育科学の基礎	1後		2		○										兼7		
		ことばと教育	1後		2		○										兼1		
		国際理解教育	1後		2		○										兼2		
		アジア理解教育	1後		2		○										兼2		
人間と道徳		1前		2		○										兼1			
教員のための数学		1後		2		○										兼1			
環境教育論		1前		2		○										兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養基礎科目	分野別科目 教育とキャリア	消費者教育論	1後		2		○									兼1
		表現教育	1後		2		○									兼3
		遊びとスポーツ	1前		2		○									兼1
		教職実践論	1後		2		○									兼1
	小計 (93科目)	—	2	166	0	—			26	10	1	0	0		兼57	
総合科目	基盤教養科目	資料・情報利用法	1後		2		○			1						兼1
		クリティカル・シンキング入門	1後		2		○			1						
		コンピュータを使った統計入門	1後		2		○					1				
		メディア・リテラシー演習	1後		2		○			1		1				
		科学的・批判的思考の実践	1前		2		○			1						
		古典から学ぶ大学	1前		2		○			4						
		アクティブ・ラーニング入門	1前		2			○								兼2 集中
	多様性理解科目	「障害」者と人権	1前		2		○									兼1
		ジェンダーとセクシュアリティ	1後		2		○									兼1
		共生社会論	1前		2		○									兼1
		国際理解	1後		2		○									兼1
		多文化共生の社会をめざして	1前		2		○									兼1
		障害者支援入門	1後		2		○									兼1
		外国人児童生徒教育	1前		2		○									兼1
小計 (14科目)	—	0	28	0	—			6	2	1				兼10		
共通基礎科目	言語科目	英語 I a	1前	1			○		3	5						兼4
		英語 I b	1後	1			○		3	5						兼4
		英語 II a	2前	2			○		3	5						兼4
		英語 II b	2後		2		○									兼4
		ドイツ語 I a	1前		1		○		1							兼1
		ドイツ語 I b	1後		1		○		1							兼1
		ドイツ語 II a	2前		2		○		1							兼1
		ドイツ語 II b	2後		2		○		1							兼1
		フランス語 I a	1前		1		○		1							兼1
		フランス語 I b	1後		1		○		1							兼1
		フランス語 II a	2前		2		○		1							兼1
		フランス語 II b	2後		2		○		1							兼1
		中国語 I a	1前		1		○			1						兼1
		中国語 I b	1後		1		○			1						兼1
		中国語 II a	2前		2		○			1						兼1
		中国語 II b	2後		2		○			1						兼1
		外国語コミュニケーション	2前・後	2			○			1						兼2
		韓国語 I a	1前		1		○									兼1
		韓国語 I b	1後		1		○									兼1
		韓国語 II a	2前		2		○									兼1
		韓国語 II b	2後		2		○									兼1
		日本語 I a	1前		1		○									兼1
		日本語 I b	1後		1		○									兼1
日本語 II a	2前		2		○									兼1		
日本語 II b	2後		2		○									兼1		
小計 (25科目)	—	6	32	0	—			5	6	0	0	0		兼10		

外国人留学生のみ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基礎科目	体育科目	スポーツ実技 a	1前	1				○	5						兼8
		スポーツ実技 b	1後	1				○	5						兼8
		小計 (2 科目)	—	2	0	0	—	—	5	0	0	0	0	0	兼8
	ICT科目	ICT基礎 a	1前	2				○	7	6	1				兼1
ICT基礎 b		1後	1				○	3	3	3					
小計 (2 科目)		—	3	0	0	—	—	10	9	3	0	0	0	兼1	
教育基礎科目	教育基礎セミナー	1前	2				○	3	3	3	0	0			
	教育総論	1後	2				○							兼1	
	発達と学習の心理学	1前	2				○							兼1	
	学校の役割と経営	2後	2				○							兼1	
	学校安全	2前	2				○	1							
	現代社会と教育	2後	2				○	1							
	生涯学習の現在と未来	2前	2				○	1							
小計 (7 科目)	—	10	4	0	—	—	6	3	3	0	0	0	兼3		
教育職員免許状取得に関する科目	教職に関する科目	教職入門	2前	2				○							兼1
		教育実践論	2後	2				○							兼1
		中等国語科教育法Ⅰ	2前	2				○							兼1
		中等国語科教育法Ⅱ	2後	2				○							兼1
		中等国語科教育法Ⅲ	3前	2				○							兼1
		中等国語科教育法Ⅳ	3後	2				○							兼1
		数学科教育法Ⅰ	2前	2				○							兼1
		数学科教育法Ⅱ	2後	2				○							兼1
		数学科教育法Ⅲ	3前	2				○							兼1
		数学科教育法Ⅳ	3後	2				○							兼1
		中等理科教育法Ⅰ	2前	2				○							兼1
		中等理科教育法Ⅱ	2後	2				○							兼1
		中等理科教育法Ⅲ	3前	2				○							兼1
		中等理科教育法Ⅳ	3後	2				○							兼1
		中等音楽科教育法Ⅰ	2前	2				○							兼1
		中等音楽科教育法Ⅱ	2後	2				○							兼1
		中等音楽科教育法Ⅲ	3前	2				○							兼1
		中等音楽科教育法Ⅳ	3後	2				○							兼1
		美術科教育法Ⅰ	2前	2				○							兼1
		美術科教育法Ⅱ	2後	2				○							兼1
		美術科教育法Ⅲ	3前	2				○							兼1
		美術科教育法Ⅳ	3後	2				○							兼1
		保健体育科教育法Ⅰ	2前	2				○							兼1
		保健体育科教育法Ⅱ	2後	2				○							兼1
		保健体育科教育法Ⅲ	3前	2				○							兼1
		保健体育科教育法Ⅳ	3後	2				○							兼1
中等家庭科教育法Ⅰ	2前	2				○							兼1		
中等家庭科教育法Ⅱ	2後	2				○							兼1		
中等家庭科教育法Ⅲ	3前	2				○							兼1		
中等家庭科教育法Ⅳ	3後	2				○							兼1		
中等英語科教育法Ⅰ	2前	2				○							兼1		
中等英語科教育法Ⅱ	2後	2				○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教育職員免許取得に関する科目	教職に関する科目	中等英語科教育法Ⅲ	3前		2		○									兼1	
		中等英語科教育法Ⅳ	3後		2		○									兼1	
		道徳教育論	3後		2		○									兼1	
		生徒指導・進路指導論	2前		2		○									兼1	
		生徒指導論	2後		2		○									兼1	
		教育相談の心理学	1後		2		○									兼1	
		教育実習(中・高)	4前		5				○							兼1	集中
		教育実習(高)	4前		3				○							兼1	集中
		養護実習	4前		5				○							兼1	集中
		教職実践演習(中・高)	4後		2			○								兼7	
		教職実践演習(養護教諭)	4後		2			○								兼3	
		小計(43科目)	—	0	93	0		—		0	0	0	0	0	0	兼37	
		るには教科関係科目を兼ねる	教職インターンシップ	2通		2				○		1					
小計(1科目)	—			0	2	0		—		1	0	0	0	0			
るには養科関係科目を兼ねる	教職インターンシップ	2通		2				○		1						集中	
		小計(1科目)	—	0	2	0		—		1	0	0	0	0			
専門教育科目	教育協働科目	協働共通科目	教育協働概論Ⅰ	1前	2		○			1	1				1		
			教育協働概論Ⅱ	1後	2		○			1	1				1		
			地域社会と協働	2前		2		○				1					
			教育協働デザイン演習	2後		2			○				1				
			教育コラボレーション演習	3前	2				○		1	1			1		
			外国語実践演習(英語)	3前		2			○							兼3	
			外国語実践演習(ドイツ語)	3前		2			○							兼1	
			外国語実践演習(フランス語)	3前		2			○							兼1	
			外国語実践演習(中国語)	3前		2			○							兼1	
			外国語実践演習(日本語)	3前		2			○							兼1	外国人留学生のみ
	小計(10科目)	—	6	14	0		—		2	4	1		2	兼7			
	専攻共通科目	教育心理学	生涯学習概論	1後		2		○			1						
			心理学概論	1前		2		○				1					
			社会福祉概論	1後		2		○								兼1	
			スクールカウンセリング・ソーシャルワーク論	2前		2		○								兼1	
			チーム学校と教育支援	2前		2		○								兼1	
小計(5科目)	—	0	10	0		—		1	1	0	0	0	兼3				
健康安全科学	自然災害教育論	1後		2		○					1						
	教育のための健康と安全	1前		2		○			2	1							
	安全教育基礎論	1後		2		○			1								
	安全管理基礎論	2前		2		○					1						
	組織活動基礎論	2後		2		○					1						
	救急処置法	2前		2			○		1								
小計(6科目)	—	0	12	0		—		3	2	0	0	0					
理数情報	数理科学教育と社会	1前		2		○			2	1							
	情報科学教育と社会	1後		2			○			1	1			オムニバス			
	科学教育と情報	2後		2			○		2								
	科学リテラシーと社会	1後		2		○			3	4				オムニバス			
	サイエンス活動指導論	2前		2			○		1	1							
	サイエンスコミュニケーション概論	2前		2			○			1	1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	専攻共通科目 情報 グローバル教育	小計 (6 科目)	—	0	12	0	-	-	5	6	2	0	0	
		グローバル教育概論	1前		2		○		1					
		グローバル社会入門	2前		2		○							兼1
		多文化リテラシー入門	1前		2		○		1					
		多文化フィールドワーク	2後		2		○			1				
		グローバル言語学入門Ⅰ	2前		2		○			1				
		グローバル言語学入門Ⅱ	2後		2		○		1					
		小計 (6 科目)	—	0	12	0	-	-	3	1	0	0	0	
	芸術表現	社会芸術教育協働活動基礎演習	2前		2			○	1					
		社会における芸術	2後		2			○		1				
		コミュニティとアート	1前		2			○						兼1
		芸術表現文化論	1後		2		○		1					
		課外活動指導法 (音楽)	2前		2		○			1				
		課外活動指導法 (美術)	2前		2			○		1				
		小計 (6 科目)	—	0	12	0	-	-	2	3	0	0	0	
	スポーツ科学	スポーツ教育原理	1前	2			○							兼1
		スポーツコーチング論	2前	2			○							兼1
		課外活動指導法 (スポーツ)	2前	2			○							兼1
		生涯スポーツ論	1前	2			○		5					兼8 オムニバス
		小計 (4 科目)	—	8	0	0	-	-	5	0	0	0	0	
	プロジェクト演習科目	学教育心理科	教育心理学プロジェクト演習A	3後	2	0		○	1	1				
			教育心理学プロジェクト演習B	3前	2	0		○	1	1				
			小計 (2 科目)	—	4	0	0	-	-	2	2	0	0	0
		学健康安全科	健康安全協働プロジェクト演習A	3前	2	0		○	1	1				
健康安全協働プロジェクト演習B			4後	2	0		○	1	1					
小計 (2 科目)			—	4	0	0	-	-	2	2	0	0	0	
理教情報		情報システムプロジェクト演習	3前		2			○	4	1	1			
		数理情報プロジェクト演習A	4前		2			○	4	1	1			
		数理情報プロジェクト演習B	4後		2			○	4	1	1			
		科学教育プロジェクト演習A	3前		2			○	5	3				
	科学教育プロジェクト演習B	4後		2			○	4	3					
	小計 (5 科目)	—	0	10	0	-	-	13	5	2	0	0		
グローバル教育	English and Education Project Seminar A	4前		2			○	4						
	English and Education Project Seminar B	4後		2			○	4						
	多文化リテラシープロジェクト演習A	4後		2			○	1						
	多文化リテラシープロジェクト演習B	4前		2			○	1						
	多文化教育プロジェクト演習A	4前		2			○	1	1					
	多文化教育プロジェクト演習B	4後		2			○	1	1					
	小計 (6 科目)	—	0	12	0	-	-	6	1	0	0	0		
芸術表現	ピアノ指導法プロジェクト演習	3前		2			○	1	1					
	社会芸術教育協働活動・音楽	3後		2			○	1						
	社会芸術教育協働活動・美術	3後		2			○		1					
	音楽教材創作プロジェクト演習	4前		2			○	1						
	デジタルミュージック教材開発プロジェクト演習	4前		2			○	1						
	デジタルメディア教材開発	3前		4			○	1						
	総合製作マネジメントプロジェクト演習	4前		2			○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	小計（7科目）	—	0	16	0	—			5	3	0	0	0	
	スポーツ教育プロジェクト演習A	3後	2				○		4					
	スポーツ教育プロジェクト演習B	4前	2				○		4					
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			4	0	0	0	0	
専攻分野科目	教育心理学	2前		2			○							兼1
	図書館情報学概論	2後		2			○			1				兼1
	メディア文化論	2後		2			○							
	医療心理学	3前		2			○			1				
	家族心理学	3後		2			○		1					
	学習社会論	3前		2			○		1					
	教育心理科学演習Ⅰ	4前	2					○	1	1				
	教育心理科学演習Ⅱ	4後	2					○	1	1				
	教育人間学	3前		2			○		1					
	教育心理学	2前		2			○			1				
	産業心理学	2後		2			○							兼1
	児童サービスと資料	3前		2			○		1					
	社会保障論	2後		2			○		1					
	子ども家庭福祉	2前		1			○							兼1
	社会教育論	2前		2			○							兼1
	障害児（者）心理学	3後		2			○							兼1
	情報サービス演習Ⅰ	3前		2				○						兼1
	情報サービス演習Ⅱ	3後		2				○		1				
	情報サービス概論	3前		2			○							兼1
	情報資源組織演習Ⅰ	3前		2				○						兼1
	情報資源組織演習Ⅱ	3後		2				○						兼1
	情報資源組織概論	3前		2			○							兼1
	心理学基礎実験実習	2後		2					○	1	2	1		
	心理学研究法	2前	2				○			1		1		
	心理学統計法	2後		2			○							兼1
	心理検査実習	4前		2					○	1				
	心理実践実習	4後		2					○	1				
	心理実践職能論	3前		2			○			1				
	心理面接実習	4後		2					○	1				
	心理療法論	3前		2			○			1				
	神経心理学	2後		2			○							兼1
	人格心理学	3前		2			○							兼1
図書館サービス概論	2前		2			○			1					
図書館情報技術論	2後		2			○			1					
図書館情報資源概論	2前		2			○							兼1	
図書館制度・経営論	3後		2			○							兼1	
生涯教育と高等教育	2前		2			○			1					
生涯教育学研究法	2後	2				○			1					
生涯教育基礎論Ⅱ	2前		2			○			1					
生涯教育計画論Ⅰ	2後		2			○			1					
生涯教育計画論Ⅱ	3前		2			○							兼1	
生涯教育実践研究Ⅰ	2後		2			○			2	1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	専攻分野科目 教育心理科学	生涯教育実践研究Ⅱ	3前	2		○			2	1						
		生涯教育調査法	3後	2		○			1							
		生涯教育基礎論Ⅰ	2後	2		○			1							
		生涯人間発達論	2前	2		○			1							
		精神医学概論	2後	2		○			1							
		対人関係論	3後	2		○			1							
		認知心理学	3前	2		○										兼1
		発達臨床心理学	2後	2		○				1						
		臨床心理学概論	2前	2		○					1					
		国際化と成人教育	2後	2		○										兼1
		社会教育課題研究A	3後	2			○		1	1						
		社会教育課題研究B	3前	2			○		1	1						
		社会教育課題研究C	3後	2			○		1	1						
		図書館情報資源特講	2後	2		○				1						
		学校・青少年問題と社会教育	3前	2		○			1							
		図書館史	3後	2		○										兼1
		図書館情報学特講	3前	2		○				1						
		生理心理学	2後	2		○										兼1
		学習心理学	3後	2		○										兼1
		小計 (61 科目)		—	8	113	0	—	—	5	4	1	0	0		兼17
健康安全科学	健康な生活を考える 住環境学（製図を含む。） カウンセリング論 セーフティプロモーション論 ヘルスプロモーション論 安全デザイン論 安全科学研究法 安全管理論演習 安全教育学演習 安全行動学 安全情報学 衣生活科学 栄養生化学 衛生学・公衆衛生学 疫学・保健統計学 解剖生理学 学校保健 環境安全論 環境保健学 看護学実習 健康安全科学実習 健康衣生活論（被服製作実習を含む。） 健康運動学 健康管理学 防災史 健康食生活論	1前	2		○			1	1							
		1前	2		○			1								
		3前	2		○										兼1	
		1前	2		○			1								
		3前	2		○			1								
		1前	2		○				1							
		3後	2		○				1							
		3前	2			○		1								
		2前	2			○		1								
		2後	2		○				1							
		3前	2		○				1							
		1前	2		○			1								
		1前	2		○				1						兼1	
		2前	2		○			1								
		2後	2		○				1							
		2後	2		○				1							
		2前	2		○			1								
		1後	2		○				1							
		1後	2		○					1						
		1後	2		○						6	3				
2前	2		○			1										
2後	2		○				1									
2前	2		○			1										
1後	2		○					1								
1後	2		○											兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目 専攻分野科目 理数情報	データ構造とアルゴリズム	3前		2		○				1							
	プログラム言語	2後		2		○				1							
	応用数理Ⅰ	3前		2		○			1								
	応用数理Ⅱ	3後		2		○			1								
	解析学Ⅰ	3前		2		○					1						
	解析学Ⅱ	3後		2		○					1						
	解析学A	2前		2		○					1						
	解析学B	2後		2		○					1						
	確率・統計	2前		2		○			1								
	確率・統計統論	2後		2		○			1								
	確率論Ⅰ	3前		2		○			1								
	確率論Ⅱ	3後		2		○			1								
	幾何学Ⅰ	3前		2		○			1								
	幾何学Ⅱ	3後		2		○			1								
	幾何学A	2前		2		○			1								
	幾何学B	2後		2		○			1								
	計算機科学	2前		2		○				1							
	ロボット教材とプログラミングA	3前		1			○		1		1						
	ロボット教材とプログラミングB	3後		1			○		1		1						
	Global Technology Communication	3前		1			○		2	2							オムニバス
	情報解析Ⅰ	3前		2			○		1								
	情報解析Ⅱ	3後		2			○		1								
	情報解析概論A	2前		2			○			1							
	情報解析概論B	2後		2			○			1							
	情報処理演習	1後	2					○	1								
	プログラミングとグループワークⅠ	2前		2			○				1						
	プログラミングとグループワークⅡ	2後		2			○			1							
	数理計画法・OR	3後		2			○										兼1
	数理情報A	2前		2			○		1								
	数理情報B	2後		2			○		1								
	線型代数学A	1前	2				○					1					
	線型代数学B	1後	2				○					1					
	代数学Ⅰ	3前		2			○		1								
	代数学Ⅱ	3後		2			○		1								
	代数学A	2前		2			○		1								
	代数学B	2後		2			○		1								
	微分積分学A	1前	2				○		1								
	微分積分学B	1後	2				○		1								
	微分積分学C	1後	2				○		1								
	情報セキュリティと情報法	2後		1			○		1		1						
	数理探求Ⅰ	3前		2			○		4	1	1						
	数理探求Ⅱ	3後		2			○		4	1	1						
	数理探求教材開発	4後		2			○										兼1
	小計 (48 科目)		—	12	80	0		—	7	2	1	0	0				兼2
	(自然科学コース)																
	物理学基礎		1後		2		○		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 専攻分野科目 理数情報	物質化学基礎	1前		2		○				1						兼1 兼1 兼1
	宇宙科学	2前		2		○										
	サイエンスの歴史と社会	3後		2		○										
	サイエンスと現代生活	3前		2		○										
	応用物質化学	2後		2		○			1							
	基礎物理化学	2前		2		○			1							
	基礎有機化学	2後		2		○				1						
	サイエンスと知的財産	3前		2		○			1							
	サイエンスと地球資源	3後		2		○				1						
	細胞機能学	2前		2		○				1						
	自然システム概説	2後		2		○			1							
	自然システム基礎	2前		2		○			1							
	自然システム実験Ⅰ	1後		1				○	2	1						
	自然システム実験Ⅱ	3後		2				○	2	1						
	Science Presentation Skills	4前		2				○	1	1						
	物理課題研究プロジェクト	3後		2			○		1	1						
	物理実験デザインプロジェクト	3前		2			○		1	1						
	化学実験デザインプロジェクト	3後		2			○		3	2						
	集団生物学	3前		2		○				1						
	初等量子論	2後		2		○			1							
	植物生理学	3前		2		○			1							
	水圏科学	2後		2		○			1							
	応用物理化学	2前		2		○			1							
	生物統計学	2後		2		○					1					
	有機物質化学	3前		2		○			1							
	生命科学概説	2後		2		○				1						
	生命科学基礎	2前		2		○				1						
	生命科学実験Ⅰ	1後		1				○		1						
	生命科学実験Ⅱ	3前		1				○	1	2						
	生命科学実験Ⅲ	3前		1				○	1							
	化学課題研究プロジェクト	3後		2			○		1	1						
	生物実験デザインプロジェクト	3後		2			○		1							
	大気科学	2前		2		○			1							
	生物課題研究プロジェクト	3後		2			○		1							
	固体地球科学	2後		2		○				1						
	統計物理学	3前		2		○			1							
	動物発生学	2後		2		○									兼1	
	熱力学	2前		2		○				1						
	物質化学概説	2前		2		○			1							
	物質化学実験Ⅰ	1後		1				○		1						
	物質化学実験Ⅱ	3前		2				○	2	1						
	地学課題研究プロジェクト	3後		2			○		2	1						
	自然システム野外実習	3前		2				○	1							
地学実験デザインプロジェクト	3後		2			○		2	1							
物理科学概説	1前		2		○			1								
物理科学実験Ⅰ	1後		1				○	1	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門教育科目	理数情報	物理科学実験Ⅱ	3前		2				○		2	1							
		サイエンス実験教材開発	2後		2				○		6	2							
		分子遺伝学	2前		2			○			1								
		分析化学	3前		2			○			1								
		無機化学	2後		2			○			1								
		サイエンスデジタル教材開発	2前		2			○				3							
		力学	2後		2			○				1							
		科学教育実践演習	4前		2				○		2	2							
		電磁気学	2前		2				○										兼1
		量子物理学	3後		2				○										兼1
		小計 (57 科目)		—	0	108	0			—		10	6	0	0	0			兼6
グローバル教育	(英語コミュニケーションコース)																		
	Academic Debate I	2前		2				○		1									
	Academic Debate II	2後		2				○		1									
	Academic Listening I	1前	2					○										兼1	
	Academic Listening II	1後	2					○										兼1	
	Academic Presentation	1後	2					○										兼1	
	Academic Reading I	1前	2					○				1							
	Academic Reading II	1後	2					○				1							
	Academic Writing	1前	2					○			1								
	Practical English Pronunciation	1後	2						○	1									
	Professional English	1前	2						○	1									
	Speech Communication in English I	1前	2						○		1								
	Speech Communication in English II	1後	2						○		1								
	Introduction to English Linguistics I	2前		2					○		1								
	Introduction to English Linguistics II	2後		2					○		1								
	Seminar on English Linguistics I	2前		2					○		1								
	Seminar on English Linguistics II	3後		2					○		1								
	Introduction to UK and US Area Studies I	2前		2					○		1								
	Introduction to UK and US Area Studies II	2後		2					○			1							
	History of American Literature	2後		2					○			1							
	American Literature Seminar	2後		2					○			1							
	Language Communication Seminar I	3前		2					○										兼1
	Language Communication Seminar II	3後		2					○			1							
	Global Communication I	3前		2					○		1								
	Global Communication II	3後		2					○		1								
	American Area Studies I	3前		2					○			1							
	American Area Studies II	3後		2					○		1								
	British Area Studies I	3前		2					○										兼1
	British Area Studies II	3後		2					○										兼1
	American Literature Study I	3前		2					○			1							
American Literature Study II	3後		2					○			1								
Introduction to British and American Literature	2前		2					○		1									
オーラル・コミュニケーション上級 I	2前		2					○										兼1	
オーラル・コミュニケーション上級 II	2後		2					○										兼1	
オーラル・コミュニケーション中級 I	1前		2					○										兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目 専攻分野科目 グローバル教育	オーラル・コミュニケーション中級Ⅱ	1後		2			○								兼1
	ライティング中級Ⅰ	2前		2			○								兼1
	ライティング中級Ⅱ	2後		2			○								兼1
	比較文化論	1後		2			○								兼1
	小計 (38 科目)	—	20	56	0		—		4	5	0	0	0		兼8
	(多文化リテラシーコース)														
	中国文学入門A	1前		2			○		1						
	中国文学入門B	1後		2			○			1					
	中国の言語文化A	1前		2			○		1						
	中国の言語文化B	1後		2			○		1						
	グローバル経済文化論	1前		2			○		1						
	グローバル歴史文化論	1後		2			○		1						
	グローバル芸術文化論	1前		2			○		1						
	グローバル言語文化論	1後		2			○		1						
	日本・アジア比較文化論	3前		2			○		1						
	日本文学概論	1後		2			○								兼1
	中国文学概論	2後		2			○								兼1
	German Communication Skills I A	2前		1			○								兼1
	German Communication Skills I B	2後		1			○								兼1
	German Communication Skills II A	3前		1			○								兼1
	German Communication Skills II B	3後		1			○								兼1
	ヨーロッパ比較文化論	3前		2			○			1					
	French Communication Skills I A	2前		1			○		1						
	French Communication Skills I B	2後		1			○		1						
	French Communication Skills II A	3前		1			○								兼1
	French Communication Skills II B	3後		1			○								兼1
	Basic European Language A	1前		2				○							兼1
	Basic European Language B	1後		2				○							兼1
	異文化間教育	3前		2			○								兼1
	音楽人類学Ⅰ	2前		2			○		1						
	音楽人類学Ⅱ	3後		2			○		1						
	管絃(雅楽)Ⅰ	1後		2				○							兼1
	管絃(雅楽)Ⅱ	2前		2				○							兼1
	ヨーロッパの文化と教育A	2前		2			○			1					
	ヨーロッパの文化と教育B	2後		2			○								兼1
	Cultural Studies A	3前		2			○			1					
	Cultural Studies B	3後		2			○								兼1
	国際教育比較プロジェクト演習A	3前		2				○		1					
	国際教育比較プロジェクト演習B	3後		2				○							兼1
	書道概論Ⅰ(書写を中心とする。)	2前		2				○		1					
	書道概論Ⅱ(書写を中心とする。)	2後		2				○		1					
	歴史研究プロジェクト演習A	2前		2				○	1	1					
	歴史研究プロジェクト演習B	3後		2				○	1	1					
	知識科学研究プロジェクト演習A	2後		2				○	1	1					
	知識科学研究プロジェクト演習B	3後		2				○	1	1					
	経済研究プロジェクト演習A	2後		2				○	1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	専攻分野科目 芸術表現	音楽専門実技ⅣA	4前	3				○		1	1							
		音楽専門実技ⅣB	4後	3				○		1	1							
		管弦楽作品創作プロジェクト演習A	2前		1				○		1							
		管弦楽作品創作プロジェクト演習B	3後		1				○		1							
		管弦打楽器ⅠA	1前		1				○		2	1						
		管弦打楽器ⅠB	1後		1				○		2	1						
		管弦打楽器ⅡA	2前		1				○		2	1						
		管弦打楽器ⅡB	2後		1				○		2	1						
		管絃（雅楽）Ⅱ	2後		2				○									兼1
		合唱実技Ⅰ	1前		1				○		1							
		合唱実技Ⅱ	2後		1				○									兼1
		合唱実技Ⅲ	3前		1				○									兼1
		合唱実技Ⅳ	4後		1				○									兼1
		作曲理論ⅠB	1後		2			○			1							
		作曲理論ⅡA	2前		2			○			1							
		作曲理論ⅡB	2後		2			○			1							
		作曲理論ⅢA	3前		2			○			1							
		作曲理論ⅢB	3後		2			○			1							
		指揮法	3前		2				○		1	1						
		室内楽（重奏・重唱・伴奏）ⅠA	1前		1				○		2	3						
		室内楽（重奏・重唱・伴奏）ⅠB	1後		1				○		2	3						
		室内楽（重奏・重唱・伴奏）ⅡA	2前		1				○		2	3						
		室内楽（重奏・重唱・伴奏）ⅡB	2後		1				○		2	3						
		室内楽（重奏・重唱・伴奏）ⅢA	3前		1				○		2	3						
		室内楽（重奏・重唱・伴奏）ⅢB	3後		1				○		2	3						
		室内楽（重奏・重唱・伴奏）ⅣA	4前		1				○		2	3						
		室内楽（重奏・重唱・伴奏）ⅣB	4後		1				○		2	3						
		声乐ⅠA	2前		1				○		1							
		声乐ⅠB	2後		1				○		1							
		声乐プロジェクト演習A	4前		1				○		1							
		声乐プロジェクト演習B	4後		1				○		1							
		日本演劇学概説	3前		2			○										兼1
		舞楽（雅楽）	3後		2				○									兼1
		舞台表現法Ⅰ	2前		2				○									兼1
		舞台表現法Ⅱ	2後		2				○									兼1
		歴史的音楽学特講	3後		2			○			1							
Global Music Communication	3後		1			○			1									
歌唱表現の基礎	1後		2				○		1									
障害を越える音楽	4後		1			○										兼1		
作曲理論ⅠA	1前		2			○			1									
音楽学ⅠA	1前		2			○										兼1		
音楽学ⅠB	2後		2			○										兼1		
和楽器アンサンブルA	3後		1				○									兼1		
小計（60科目）		—	24	69	0		—		6	3	0	0	0			兼11		
	(美術表現コース)																	
	総合造形演習A	2前		4			○		1	1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目 専攻分野科目 芸術表現	総合造形演習B	2後		4				○		1	1						
	グラフィックデザイン演習A	2前		2				○			1						
	グラフィックデザイン演習B	2後		2				○			1						
	デザイン演習ⅠA	3前		4				○			1						
	デザイン演習ⅠB	3後		4				○			1						
	デザイン演習Ⅱ	3後		4				○									兼1
	デザインプロジェクト	4前		4				○			1						
	絵画演習Ⅰ	2後		4				○			1						
	絵画演習ⅡA	3前		4				○			1						
	絵画演習ⅡB	3後		4				○			1						
	絵画演習Ⅲ	4前		4				○			1						
	絵画プロジェクト	4前		4				○			1						
	絵画基礎演習	1後		4				○			1						
	美術表現の基礎	1前		2				○									兼1
	立体造形演習Ⅰ	2後		4				○			1						
	立体造形演習ⅡA	3前		4				○			1						
	立体造形演習ⅡB	3後		4				○			1						
	立体造形演習Ⅲ	4前		4				○			1						
	立体造形プロジェクト	4前		4				○			1						
	立体造形基礎演習	1後		4				○			1						
	デザイン・工芸史	3前		2				○			1						
	Global Art Communication	4後		1				○			1						
	美術史A	1前		2				○									兼1
	美術史B	2後		2				○									兼1
	美術理論Ⅰ	2前		2				○									兼1
	小計 (26 科目)		—	0	87	0		—			1	3	0	0	0		兼3
スポーツ科学	体育史	2前		2			○			1							
	運動生理学	1後		2			○									兼1	
	スポーツトレーニングと適応	2後		2			○									兼1	
	アスレティックリハビリテーション	3前		2			○									兼1	
	スポーツバイオメカニクス	3後		2			○			1							
	スポーツマッサージ	4前		2				○								兼1	
	スポーツ医学	2後		2			○									兼1	
	スポーツ行政論	3前		2			○									兼1	
	スポーツ指導者育成論	3後		2			○			1							
	救急処置法	3前		2				○		1							
	身体表現論	3後		2			○			1							
	学校と地域スポーツ	3前		2			○									兼1	
	障害者とスポーツ	3後		1			○									兼1	
	デジタルスポーツ教材開発A	3前		1			○									兼1	
	デジタルスポーツ教材開発B	3後		1			○									兼1	
	Global Sports Communication	3前		1			○									兼1	
	スポーツマネジメント論	2後		2			○									兼1	
	スポーツフィットネス演習	3前		2				○		1							
	スポーツと栄養	3後		2				○								兼1	
	サッカー	3前		1					○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	専攻分野科目 スポーツ科学	スキー実習	3後	2				○								兼1
		スポーツ社会学	1前	2			○									兼1
		スポーツ心理学	2後	2			○									兼1
		ダンス・クラシック	3前	2				○		1						
		ダンス	2前	1					○	1						
		テニス	4前	1					○	1						
		ソフトボール	2後	1					○							兼1
		バスケットボール	3後	1					○							兼1
		バレーボール	3前	1					○	1						
		ハンドボール	4前	1					○							兼1
		ラグビー	4前	1					○							兼1
		運動学	2前	2				○		4						
		衛生学及び公衆衛生学	1後	2				○								兼1
		学校保健	2前	2				○								兼1
		器械運動	1前	1					○							兼1
		体づくり運動	1後	1					○	4						オムニバス
		剣道	2後	1					○	1						
柔道	2前	1					○							兼1		
水泳	1前	1					○	1								
陸上競技	2後	1					○							兼1		
	小計 (40 科目)	—	0	62	0		—		5	0	0	0	0		兼24	
自由選択科目	学校図書館司書教諭資格 取得科目	学校経営と学校図書館	3前	2			○								兼1	
		学校図書館メディアの構成	3前	2			○								兼1	
		学習指導と学校図書館	3後	2			○								兼1	
		読書教育と図書館	3前	2			○								兼1	
		情報メディアの活用	3前	2			○								兼1	
	小計 (5 科目)	—	0	10	0		—		0	0	0	0	0		兼3	
卒業研究		4通	4				○									
合計 (720科目)		—	117	1272	0		—		36	29	3	0	0		兼172	
学位又は称号		学士 (教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

1 基本理念

大阪教育大学は、「我が国の先導的な教員養成大学として、教育の充実と文化の発展に貢献し、とりわけ教育界における有為な人材の育成を通して、地域と世界の人々の福祉に寄与する大学であることを使命とする。」を基本理念とし、第三期中期目標においては、「大阪教育大学は、教員養成及び教育・学習支援人材養成の広域的拠点として、学長のリーダーシップのもと全学的な改革に取り組み、我が国の教育界を牽引するグローバル教育人材を養成する。」ことを目標としつつ、具体的に次のように定めている。

- ① 義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域的拠点の役割をめざし、我が国の学校教員の質の向上に貢献するため、実践型教員養成機能への質的転換を行う。
- ② 理数系に重点を置いた中等教育教員の養成等、高度な専門的知識・指導力を有するスクールリーダー等の高度専門職業人たる教員の養成機能をさらに強化する。
- ③ 大学全体の教員養成及び教育・学習支援人材養成の機能の充実・強化を支えるため、グローバル化に対応した教養教育の質的充実を図る。
- ④ 現代教育課題を理解し、汎用基礎力及び協働力をそなえた教育・学習支援分野への人材養成を進める。
- ⑤ 附属学校や教育委員会等と協働して学校における実践的課題解決に資する研究活動を行うとともに、我が国の教員の資質能力向上に寄与する等、教員の研究活動等を通じて積極的な社会貢献活動を行う。

また、本学の教員養成課程と新たに設置する教育協働学科では、カリキュラムや実際の教育指導面での連携を強化するとともに、研究活動、学校支援、国際協力、地域連携などにおいても協働の関係を構築していく。

このようにして、本学が、我が国の教員養成全体のニーズや課題を主体的に受け止めるとともに、先導的かつ創造的な教育研究活動を行うことを通じて、地域(大阪府を含む広域)をはじめとして、全国の学校現場や国公私立大学等へ還元できるようにすることが、今回の教育組織改革の基本方針である。

2 設置の背景・必要性

(1) 本学の現状と課題から

教養学科は、教員養成大学・学部の中にある総合的・本格的リベラルアーツ教育の学科として、「専門性」だけでなく、21世紀の共生社会の実現に貢献する公共的な使命を担う「社会性」と自他尊重の「人間性」を学生に修得させるため、問題解決能力や表現力を自立的・実践的に学ぶ教育を実施してきた。教養学科が教員養成大学の中にあることで、教養学科の学生は、教育に関する知見を得、教育に関心を持ち、世の中のさまざまな出来事を教育的観点から考察する教育的特質を修得し、地方自治体で児童・生徒の国際交流に携わる専門職員、各種学校や大学の事務職員、教材作成会社の開発担当や教育系出版社の編集者など、多様な教育関連分野に進出し、その役割を果たしてきた。

また、教養学科では、知財教育GP、地域連携教育GP及びキッズベンチャープロジェクト、教える英語力向上GPなどを通じて、これまでも学校と社会の間における実践的人材育成に取り組み一定の成果を上げてきた。

しかし、学校や地域に欠かせない存在となっている心のケア、社会福祉のサポート、学校・地域・心身の安全、自然科学的思考、数理科学的思考、社会や教育の情報化対応、異文化理解や国際交流、芸術やスポーツも含む多様な生涯教育という社会的要請に鑑みれば、教養学科は従来の強みを活かしつつ、これら教育に連携・協働して取り組む人材の需要に対応していかなければならないと考えた。

そのため、教養学科は、教育に関する基礎的知識と専門分野の知識技能を備え、課題分析力・構想力・マネジメント力からなる「協働力」を修得させるとともに、課題解決型学習で実践力を身に付けさせることにより、教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な教育課題の解決を図る人材を養成する組織へと生まれ変わるものとする。

この改革は本学教養学科の課題として対応するものであるが、次に記載する地域的・社会的な要請における課題解決にも資するものである。

(2) 地域的・社会的な要請から

(ア) 地域の課題

大阪など近畿圏の課題としては、児童生徒の多様化・貧困化、ICT教育の推進、学校安全及び特別支援などへの対応が挙げられる。

児童生徒の多様化では、増大する地域の外国人児童生徒のための学びの保障に代表されるように、地域ぐるみの取組みが必要となっているところであり、日本語教育の支援や家庭における学習支援等、学校教員の周囲でこれらを支える人材の育成が急務である。

また、子供の貧困化及びこれに起因する低学力化、不登校、問題行動等の課題については、学校教員が社会福祉や子供の心理の専門家との連携・協働によってその解決にあたる必要がある。

ICT教育に関しては、大阪市のスタンダードモデルに代表されるようにタブレット端末等を活用した授業形態として、その展開が強力に推進されている。こうした中、学校の教員に求められるICTスキルも激しく変化していることから、これをサポートでき、かつ、新たな教育手法の開発に専門的な能力を活かすことのできる人材が不可欠となっている。

理数系教員及び英語教員においては、その不足とともに、スーパー・サイエンス・ハイスクールやスーパー・グローバル・ハイスクール等をはじめとして、新しい学習指導要領で検討されているような課題解決型の探究学習への対応や能動型の授業の開発等が求められている。

これらを実施する上で、複雑化・多様化する教育課題に対して、ICT支援員、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー等といった専門職においても、学校との密接な連携・協働のため学校教育に対する深い知見に基づいた柔軟なコーディネート機能が求められる。同時に専門職以外の学校外人材においても、求められている支援が何なのかを適切に判断し、対応するためには学校組織や教育課程などの学校理解や子供理解を踏まえて、これらのニーズに対応できる人材が必要となっている。

学校安全の取組みについては、今後予想される南海・東南海地震に対応した防災教育の実施と併せて、地域との連携・協働の下で、学校内外の安全確保を進める必要がある。セーフティプロモーションスクールの拡大と学校安全コーディネーターの配置についての議論も進んでいる。

発達障害などに対応する特別支援教育の拡大は顕著であり、特に一般の学校における特別支援学級の児童生徒の支援については、それぞれの子供のニーズにあった支援や対応が求められている。

これらはいずれも、学校教員だけでなく、サポートする様々な人材との連携・協働が不可欠である。

(イ) 全国の課題

グローバル化が急速に進展する中で、天然資源に乏しい日本が、活気ある豊かな社会を享受するためには人的資源の高度化は従来にも増して重要な課題となっている。そのためには、教育を強化・活性化して、様々な立場から教育に取り組む生涯教育社会を実現する必要がある。しかし、現在の日本では、教育といえれば学校教育への依存が非常に高く、学校への教育課題の集中が著しい状況にある。そのために学校現場が疲弊する一方で、学校以外の場における教育も十分に機能しているとは言いがたい。

つまり、学校現場を含む社会全体での教育の取組みは、生涯教育社会を実現していくことにつながり、豊かで活気のある日本への再生のための重要な要素となる。このことは、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」(教育基本法第3条)の趣旨の実現のためにも必要なものである。

中央教育審議会では、平成27年12月に、初等中等教育分科会の教員養成部会の議論を踏まえて、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の答申がなされた。また、初等中等教育分科会及び生涯学習分科会における議論を踏まえて、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」の答申も示された。あわせて、初等中等教育分科会のチームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会において、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」についても答申がなされた。そして、これら3つの答申の内容の具体化を強力に推進するため「『次世代の学校・地域』創生プラン(学校と地域の一体改革による地域創生)」が平成28年1月に文部科学大臣決定として示されたところである。

このように、学校と地域の連携や協働をさらに推進するための組織的な取組みの必要性が示されているが、そのためのキーワードの1つがチーム学校であり、教員以外の専門スタッフが教員と連携・協働しながら、学校の教育力・組織力を向上させ、それぞれの子供の状況に応じた教育を実現する必要がある。また、社会的要請のある教育課題に対しては、学校のみならず学校をとりまく社会と協働し、展開していかなければならない。

チーム学校においては、校長のマネジメントのもとで、学校を支える専門スタッフとして、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ICT支援員、学校司書、ALT、部活動指導員、特別支援教育支援員などを配置することが検討されていることから、人材養成を早急に進める必要がある。

(ウ) 企業の社会貢献活動や国の施策の状況

企業における社会貢献活動(CSR=Corporate Social Responsibility)においては、特に「教育・社会教育」分野の取り組みが進められていることに注視しなければならぬ。日本経団連の「2014年度 社会貢献活動実績調査結果」によれば、CSR活動の総額は1751億円に達し、分野別支出割合では「教育・社会教育」分野の割合が15.5%で3年連続分野別支出のトップになっており、その中心が教育であることがわかる。また、「健康・医学・スポーツ」や「文化・芸術」の分野もそれぞれ、13.5%、13.1%の支出割合となっており、これら教育関連分野の支出割合の合計は、42.1%と非常に高い割合を占めている。

もっとも、この教育CSR活動による学校教育への支援においては、学校現場の状況を十分に把握できていないことによるミスマッチや、教材開発についてのノウハウの不足、長期的視野に立つて人材交流をする観点の欠如などの課題があり、十分な効果が出ているとは言いがたい。つまり、企業におけるそれぞれの専門分野と学校理解や子供理解の両方を繋ぐ人材を継続的に投入することが大きな課題となっており、このような課題を解決することが、地域と学校の連携・協働の中でチーム学校の体制を確立するための鍵となる。

一方、激しく変動する現代社会において持続的に発生する諸課題に対しては国においても緊急的な対策を進めつつ、長期的な視点での人材育成の側面から学校現場を取り込んだ様々な施策が実施されている。例えば、環境における環境省と文科省の連携事業「持続可能な開発のための教育(ESD=Education for Sustainable Development)として学校の児童生徒に対する環境教育」や、防災における各府省の学校の児童生徒対象の防災教育や防災の普及・啓発などの事業の推進がある。しかし、ここでも教育関連CSR活動と同様に学校教育との連携という点で課題があり、学校現場における教員側の外部組織の取組みに対する専門性への理解と共に、専門的な知識などを持つ外部組織側の学校理解や子供理解を進める必要がある。

このように、企業や国の教育関連事業はこれからの社会にも必要不可欠なものであり、その効果をより確かなものとするためにも、異なる組織・集団間の有効な結合に取り組む得る連携・協働人材が求められている。

3 教育協働学科の必要性と目指すもの

学校現場における複雑化・多様化する課題に教員だけで対応することは難しく、教員が教員以外の専門的知識や技能を持つ人々と連携・協働し、チーム学校を始めとした様々な形で、子供を取り巻く教育課題の解決に取り組む必要性は高まっている。また、企業の「教育」における社会貢献活動(CSR)や国の施策も取り入れた社会全体で持続的に学校教育の課題解決を可能とする仕組みを作ることも重要である。

大阪教育大学においては、ICT関連企業とともに、タブレットPCによる「楽しさひろがる英語学習」×「学びつながるクラウド環境」教育実践モデルの産学協同実証事業の実績、デジタル技術関連企業と共同で学校現場における提出物のデジタル管理システムの開発実績、地域や学校現場のスポーツを活性化するための地域総合型の「大阪教育大学スポーツクラブ」活動の取り組み実績、地域連携学校教育プログラムとしての放課後の児童の学びをサポートするための「スタディ・アフター・スクール(SAS)」の取り組み実績、地域における森林体験学習を通じた学生の子供理解力とマネジメント力を育てながら環境教育を進めてきた実績など、企業や地域と学校を結ぶ様々な共同事業実績が存在する。

このことから、大阪教育大学はこれらの実績と教員養成大学としての強みを活かし、教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代の多様な教育課題の解決を図る人材を養成する学科として、教育協働学科を設置する。

なお、教育協働学科では、次の表に表す人材を養成するものである。

学科・専攻名	養成する人材像
教育協働学科	教育に関する基礎的知識と専門分野の知識技能を備え、課題分析力・構想力・マネジメント力からなる「協働力」を修得させると共に、課題解決型学習で実践力を身に付けさせることにより、教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な教育課題の解決を図る人材を養成する。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び民間企業(教育関連分野、教育社会貢献活動部門)で学校・家庭・地域・社会と連携・協働ができる人材、大学院進学など)
教育心理学専攻	人と人との関係性、もの見方や捉え方の違い等の考え方の基盤となる教育、心理、福祉などの分野の知識・技能を修得し、児童・生徒が学校生活で直面する困難(問題行動、不登校、低学力、非行等)に対して、教育、心理や発達、福祉の視点から、学校、家庭、地域、社会と連携・協働してカウンセリングの手法を導入するなど課題解決にあたる人材。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び教育関連企業の心理、福祉に関わる人材など)
健康安全科学専攻	教育環境を巡る安全・安心、健康の諸課題に対して科学的に捉える力や専門的に対応できる力を修得し、児童・生徒をとりまく様々な危機管理事項に対し、児童・生徒の生活環境や学校安全、健康安全の視点から、学校、家庭、地域、社会と連携・協働して安全な学校生活のための方策など課題解決にあたる人材。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び教育関連企業の学校安全に関わる人材、チーム学校に必要な学校安全コーディネーターなど)
理数情報専攻(自然科学コース)	自然科学の領域における知識や概念を修得し、学校、家庭、地域、社会と連携・協働し、児童・生徒の理科確い解済のため、新たな理科実験の企画・運営や視覚に訴える教材開発などを通じ学校教育と連動した自然科学教育の課題解決に取り組む人材。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び教育関連企業の科学教育に関わる人材など)
理数情報専攻(数理情報コース)	論理的な考え方の基礎となる数理学分野や情報科学(ICTを含む)に関する専門的な知識やスキルを修得し、発達段階に応じた論理的思考力の育みや教育の情報化の課題に対して学校、家庭、地域、社会と連携・協働し、ICT活用教育推進事業のサポートや論理的思考力を育む教材開発を通じ学校教育と連動した数理情報教育における課題解決に取り組む人材。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び教育関連企業の情報リテラシーに関わる人材、チーム学校に必要なICT支援員など)
グローバル教育専攻(英語コミュニケーションコース)	グローバル社会で必要とする英語運用能力を身につけ、学校、家庭、地域、社会と連携・協働し、児童・生徒のグローバル化に対応できる能力の向上を推進するための教材開発や国際交流支援などを通じて学校教育と連動しつつ、グローバル化時代の課題解決に取り組む人材。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び教育関連企業の国際教育に関わる人材、海外教育機関職員など)
グローバル教育専攻(多文化リテラシーコース)	日本・アジア・ヨーロッパなどの言語と文化および相互の影響関係について学び、外国人児童生徒の増加をはじめとした異文化を根源とする共生問題等の諸課題に対して、学校、家庭、地域、社会と連携・協働して課題解決に取り組む人材。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び教育関連企業の国際教育に関わる人材、海外教育機関職員など)
芸術表現専攻(音楽表現コース)	音楽に関する専門的知識、技法及び技能を身につけ、児童・生徒の音楽活動を通じた情操教育の醸成、音楽による地域の文化意識向上のため音楽イベントの企画・運営、音楽教材の開発など、学校、家庭、地域、社会と連携・協働し、音楽教育に関わる課題解決に取り組む人材。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び教育関連企業の文化振興に関わる人材など)
芸術表現専攻(美術表現コース)	美術に関する専門的知識、技法及び技能を身につけ、児童・生徒の美術活動を通じた情操教育の醸成、美術による地域の文化意識向上のため美術創作活動の企画・運営、美術教材の開発など、学校、家庭、地域、社会と連携・協働し、美術教育に関わる課題解決に取り組む人材。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び教育関連企業の文化振興に関わる人材など)
スポーツ科学専攻	スポーツに関する専門的知識、技能を身につけ、児童・生徒の体力向上、及び生涯教育社会における健康スポーツ活動の推進のため、学校、家庭、地域、社会と連携・協働しスポーツ科学的な知見を用いた教育プログラムの開発・実施などを通して、スポーツ教育に関わる課題解決に取り組む人材。 (国、地方自治体、団体(財団やNPO)及び教育関連企業のスポーツ振興に関わる人材、チーム学校に必要な部活動指導員、スポーツ教室指導者など)

II 教育課程編成の考え方・特色

1 教育課程編成の基本的な考え方

本学科のねらいとする教育的観点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働できる人材として、共通に必要な資質・能力を身に付けさせることを目的に、次のような考え方でカリキュラムを編成する。

教育の基礎理論を理解し、学校理解や子ども理解を基盤とした「教育理解」を修得するため、「教育基礎科目」群を設定し、『教育総論』、『発達と学習の心理学』や本学が力点を置く『学校安全』などの科目を開講する。

教育協働の概念や課題分析力、構想力、マネジメント力を身に付けるために、「専門教育科目」群に「教育協働」の概念を学び、演習科目を通じて実践的に学ぶ「教育協働科目」群を設定し、『教育協働デザイン演習』や『教育コラボレーション演習』、課題解決型学習としての「プロジェクト演習科目」群を開設し、各専攻の「専攻分野科目」群と併せて、本学科が目指す人材の資質・能力を育成していく。

本学科の履修基準は、下表のとおりである。

なお、「教養基礎科目」群と「共通基礎科目」群は、教育の基礎となる教養とグローバル時代に対応した言語力の向上、健康と体力育成を目的に、教員養成課程と共通に開設し、「自由選択科目」は、学生が各自のキャリア設計に基づき、全学に開講されている授業科目を自由に選択して受講できる。

また、「卒業研究」においては、これまで身に付けた教育理解や専門的知識・技能、課題分析力、構想力、マネジメント力からなる「協働力」を有機的に統合し、教育協働人材として求められる資質能力として形成していく。

その他、単位の実質化という観点からは、履修単位数の上限を設定し(1学期あたり26単位、年間52単位を原則とする)、学生が適切な履修計画を立てて学修を進められるよう、指導教員制による履修指導体制を整備している。また、GPA制度の実質化を図るべく、単位認定や評価の基準についても厳格化を進めている。

教育協働学科	教養基礎科目 ・分野別科目	共通基礎科目			教育基礎科目	専門教育科目			自由選択科目	卒業研究	計	
		言語科目	体育科目	ICT科目		教育協働科目		専攻分野科目				
						協働共通科目	専攻共通科目					プロジェクト演習科目
必修	4	8	2	3	10	6				4	/	
選択必修	12				2	4	8	4				
選択									48	12		
計	16	8	2	3	12	10	8	4	48	12		4

2 教育課程編成の特色

本学科の教育課程編成の特色は以下の5点にまとめられる。

(1) グローバル化に対応し、連携・協働を推進できる人材としての基盤づくり

「教養基礎科目」群は、教員養成や教育協働人材の養成を支え、教養教育の質的充実を図るために7領域からなる豊富な科目を開設する。その中でも様々な現代的教育課題を契機として、教育を背景とした連携・協働への関心と意欲を引き出し、自らのキャリア形成を考える科目を取り揃えた「教育とキャリア」の領域は、全学生に対し必修領域として1科目を選択必修として課す。その他、『ダイバーシティと人権』を必修科目とし、教育理解に欠かせない知識と人権感覚の醸成を図る。また、グローバル化に対応した科目として『英語による教養』を必修化する。さらに、「共通基礎科目」群では、言語力の向上を図るため複数の言語科目の修得を課すと共に、健康と体力育成のためスポーツ実技科目、ICT活用能力の育成のためICT科目を開講し、いずれも必修科目として課す。

(2) 教育理解(学校・子供理解)の醸成

「教育基礎科目」群では、教育協働学科における教育目的を認識させ、明確にするため、初年次において『教育基礎セミナー』を開講し、4年間の学びの計画をイメージさせる。さらに、教育の基礎理論の知識修得を目的に教育の理念、教育の歴史及び思想を学ぶ『教育総論』、子ども理解に必要な知識として『発達と学習の心理学』、教育制度・組織を理解する『学校の役割と経営』を学ぶ。また、国内外に向けて学校安全の取組を推進してきた本学の研究成果を踏まえた科目である『学校安全』と併せて、教育の基礎知識を学ぶ。

(3) 多様な分野の専門的な知識と技能の修得

「専門教育科目」群の「専攻分野科目」群は、Iの3「教育協働学科の必要性とめざすもの」において、記述する専攻・コースの各人材養成像に応じた深い専門的知識や技能を、講義や演習などの形式の授業で学修する科目群である。

専攻・コースの各人材養成像を踏まえた学修ができるよう、『子ども家庭福祉』、『安全デザイン論』、『サイエンスデジタル教材開発』、『グローバル社会文化論』、『課外活動指導法』、『デジタルスポーツ教材開発』などの必要な授業科目を精査の上、開講することとした。

(4)「協働力」課題分析力、構想力、マネジメント力の育成

教育協働学科で学ぶ学生は、社会において生起する多様な課題に対応し、教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働できる人材として養成されることが想定されている。そのためには、教育を背景とした連携・協働の概念の基礎や、各専門領域における学びと教育協働の概念との融合を学ぶ機会を確保することが必要と考える。

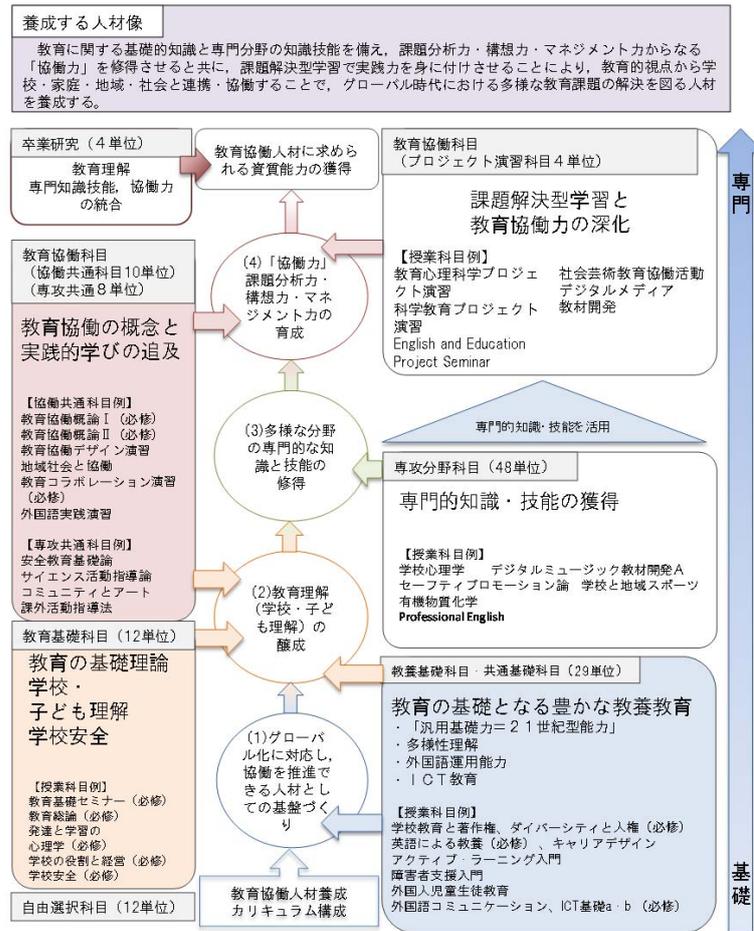
こうしたことから、「専門教育科目」群に、「教育協働科目」群を置き、「協働共通科目」群、「専攻共通科目」群及び「プロジェクト演習科目」群の3科目群から構成するカリキュラム構造とする。

「協働共通科目」群は、教育協働に必要な基礎的な知識や教育現場などにおける連携・協働の基礎を学ぶ科目群である。この中の『教育協働概論』は、教育協働のコンセプトとなる科目であり、「協働力」を身に付けるカリキュラムのコア科目である。したがって、本学科の全学生に必修科目として課し、チーム学校の概念やこれからの学校教育と地域との連携・協働の在り方やその意義と今後の方向性などを学び、コミュニティ・スクールの理解も深める。この科目を知識基盤とし、『教育協働デザイン演習』では、チーム学校や教育関連分野で活躍する人材を講師として活用しつつ、学生が課題解決型学習のグループワークによって教育協働を考察する演習を行い、課題分析力、構想力の育成に資する科目として開設する。また、『教育コラボレーション演習』では、教員養成課程の学生や他専攻の学生との連携・協働活動を含んだ課題解決型学習を設定し、学校や地域の現場を活用し、連携・協働やマネジメントについて実践的に学ぶ場とし、構想力、マネジメント力の育成に資する科目として開設する。

「専攻共通科目」群は、6専攻のそれぞれの人材養成の目的に応じて、連携・協働に関する知識や技能を学修する科目群である。例えば教育心理学専攻においては『スクールカウンセリング・ソーシャルワーク論』、グローバル教育専攻においては『グローバル教育概論』の科目が開講され、専攻全体の「協働力」を育成する。

「プロジェクト演習科目」群では、各専攻において学習した教育協働に関する知識や技能を、実際にそれぞれの分野に即した連携・協働の場において課題解決型学習形式で実践し、教育協働人材としての実践的協働力を身につける。

教育協働学科のカリキュラムの考え方



(5) 教員養成課程との連携について

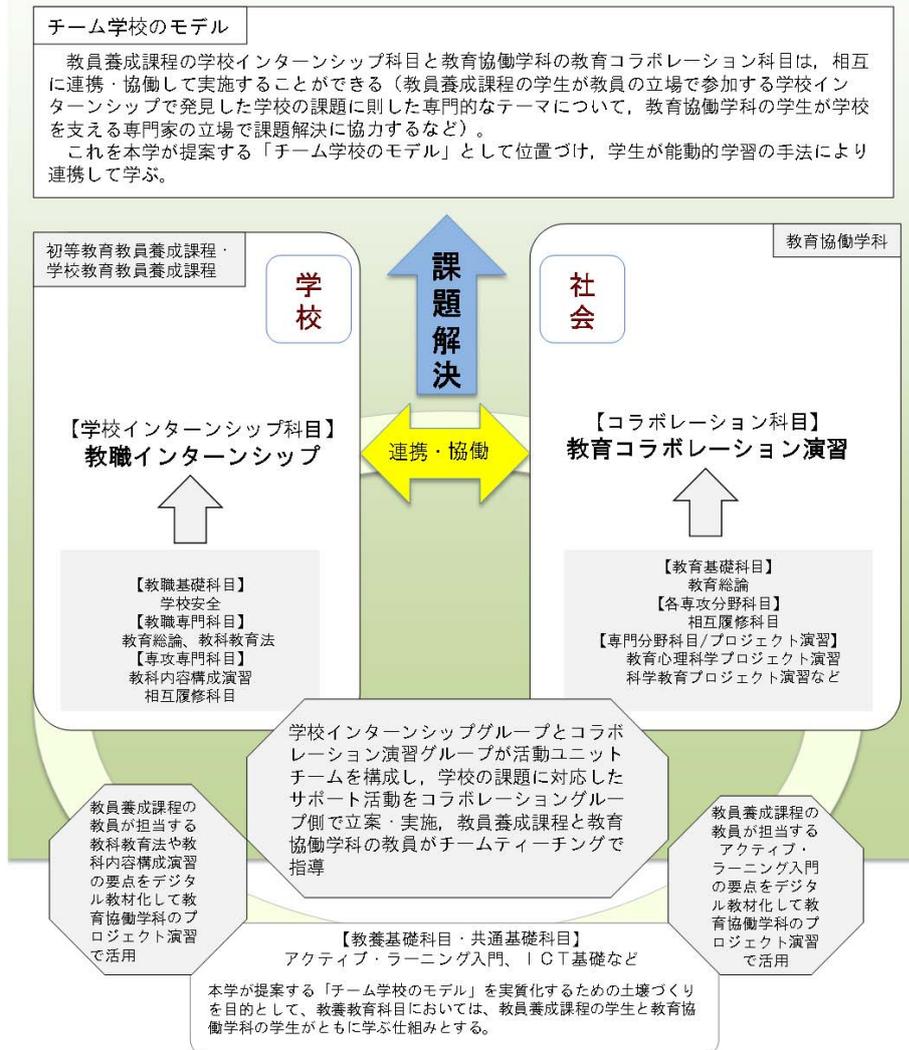
教育協働学科で学ぶ学生は、教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働できる人材を求める社会へ輩出することを想定している。そのためには、学校教育の現状や教育の基礎理論、子どもの発達などの教育に関する基礎を得る機会を確保することが必要と考えており、その具体策は、教育課程編成の考え方やその特色の中で上述しているところであるが、チーム学校のコンセプトを実践的に学ばせるため、教員養成課程の学生と共に実習活動を推進する。

具体的には、教員養成課程の学生が履修する学校インターンシップ科目と教育協働学科の教育コラボレーション科目は相互に連携・協働して実施することができるものとし、教員養成課程の学生が教員の立場で参加する学校インターンシップで発見した学校の課題に則した専門的なテーマについて、教育協働学科の学生が学校を支える専門家としての立場で課題解決に協働して取り組むなどである。そのプロセスでは、学校インターンシップグループとコラボレーション演習グループが活動ユニットチームを構成し、学校の課題に対応したサポート活動をコラボレーショングループ側で立案・実施、教員養成課程と教育協働学科の教員がチームティーチングで指導を行うこととする。

これを本学が提案する「チーム学校のモデル」として位置づけ、学生が能動的学習の手法により連携して学ぶことができる効果も期待できる。

その他、「教養基礎科目」群と「共通基礎科目」群においては、教育学部としての知見を共通的に得ることを重視し、教育協働学科の学生は教員養成課程の学生と共に学ぶこととしており、前述の学校インターンシップ科目と教育コラボレーション科目の連携・協働して実施することと合わせて、教員養成課程と教育協働学科の双方の学生の交流から相乗的な効果を生み出すことも期待している。

教育協働学科と教員養成課程の連携



3 教育協働学科の名称

本学科の名称を教育協働学科とする。学校現場における複雑化・多様化する課題に教員だけで対応することは難しく、教員以外の専門的知識や技能を持つ人々と学校教育とを連携・協働し、チーム学校を始めとした様々な形で、子供を取り巻く教育課題の解決に取り組む必要があり、その専門家養成が急がれている。本学科は、教育に関する基礎的知識と専門分野の知識技能を備え、課題分析力・構想力・マネジメント力からなる「協働力」を修得させると共に、課題解決型学習で実践力を身に付けさせることにより、教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な教育課題の解決を図る人材を養成する学科であることから教育協働学科とするものである。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養基礎科目から16単位、共通基礎科目から13単位、教育基礎科目12単位、専門教育科目から70単位以上を修得し、127単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：26単位（各学期）） なお、「教育」に関わる授業については、教育基礎科目12単位と専門教育科目の中の教育協働科目として22単位を設け、合計34単位を確保している。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要 (事前伺い)																
(教育学部 幼稚園教員養成課程) (既設)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養基礎科目	分野別科目 思索と芸術	漱石を読む	1前		2		○							兼1	集中	
		日本人の宗教観	1前		2		○							兼1		
		平安朝文学世界への誘い	1前		2		○							兼1		
		日本漢文の世界	1前		2		○							兼1		
		コンサートへの誘い	1前		2			○						兼9		
		和歌の表現世界を知る	1前		2		○							兼1		
		原文で読む中国古典	1前		2		○							兼1		
		読むための視点	1後		2		○							兼1		
		日本近代文学における個性の闘い	1後		2		○							兼1		
		ドイツ文学を読む	1後		2		○							兼1		
		芸術理論：フランス近代美学から	1後		2		○							兼1		
		民族と音楽：東南アジアを中心に	1後		2			○						兼1		
		ユーラシア美術史	1後		2		○							兼1		メディア
		アジアの中の日本美術史	1後		2		○							兼1		メディア
	日本語史のイロハ	1後		2		○							兼1			
	国際と地域	多文化共生の社会を目指して	1前		2		○							兼1	集中	
		日本事情	1前		2		○							兼1		
		海外文化研究	1前		2			○						兼2		
		国際関係論入門	1前		2		○							兼1		
		ヨーロッパ文明とは何か	1前		2		○							兼1		
		暮らしの環境と地図	1前		2		○							兼1		
		海岸の地形	1前		2		○							兼1		
		Cross-cultural Communication	1前		2				○					兼1		
		Japanese Culture	1前・後		2				○					兼1		
		国際理解	1後		2		○							兼1		
		ヨーロッパドイツの窓から	1後		2		○							兼1		
		ヨーロッパフランスの窓から	1後		2		○							兼1		
		アメリカと世界	1後		2		○							兼1		
		国際法入門	1後		2		○							兼1		
	ヨーロッパから見た日本	1後		2		○							兼1			
	歴史と社会	日本国憲法	1前		2		○							兼1	メディア	
		持続発展教育と世界遺産	1前		2		○							兼1		
		日本美術の流れ	1前		2		○							兼1		
地域から見る世界史		1前		2		○							兼1			
東アジアの歴史		1前		2		○							兼1			
西南アジアの歴史		1前		2		○							兼1			
地域から見る日本史		1後		2		○							兼1			
地域史としての考古学		1後		2		○							兼1			
日本科学技術史概論		1後		2		○							兼1			
歴史の中のサイエンス		1後		2		○							兼1			
Media Studies		1後		2				○					兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養基礎科目	歴史と社会	近現代外交史	1後	2		○								兼1	
		政治と社会	1後	2		○								兼1	メディア
	人間と生活	部落問題概論Ⅰ	1前	2		○								兼1	
		部落問題概論Ⅱ	1後	2		○								兼1	
		平和のための教育	1前	2		○								兼1	
		ライフサイクルの心理学	1前	2		○								兼1	
		グローバル化時代の人間と社会	1前	2		○								兼1	
		現代社会学の方法と実践	1前	2		○								兼1	
		現場に活かすスポーツ実戦論	1前	2		○								兼1	
		健康科学への招待	1前	2		○								兼3	オムニバス
		生活環境をさぐる	1前	2		○								兼3	オムニバス
		地域連携学校教育入門ー現代社会を生きるー	1前	2		○								兼1	
		身の回りのサイエンス	1前	2		○								兼1	
		健康科学論	1前	2		○								兼1	メディア
		Discussion Skills	1前	2				○						兼1	
		問題解決のためのデータ分析入門	1前	2		○								兼1	メディア
		光の科学と人間	1前	2		○								兼1	メディア
		インターンシップとキャリア	1前	2					○					兼1	集中
		障がい者支援入門	1前	2		○								兼1	
		貨幣とわれわれの社会	1後	2		○								兼1	
		科学リテラシーと市民生活	1後	2		○								兼7	オムニバス
		Academic Presentation Skills	1後	2				○						兼2	
	都市防災対策と防災教育	1後	2		○								兼1	メディア	
	心理生理学	1後	2		○								兼1	メディア	
	性倫理と性教育	1後	2		○								兼1	メディア	
	野外教育論	1後	2		○								兼1	メディア	
	環境教育概論	1後	2		○								兼1	メディア	
	対人コミュニケーションの心理学	1後	2		○								兼1		
	生命と環境	里山の自然誌	1前	2		○								兼1	
		水と環境を考える	1前	2		○								兼1	
		生命と共生	1前	2		○								兼1	
		地球と災害	1前	2		○								兼1	
		DNAを中心とした生命科学	1後	2		○								兼1	
		はかってなんぼー環境をはかる	1後	2		○								兼1	
		地球と環境	1後	2		○								兼1	
		ミクロの生物学入門	1後	2		○								兼1	
		大阪の環境と地球環境	1後	2		○								兼1	
		自然史博物館への招待	1後	2		○								兼1	
		生物学と医学の出会い	1後	2		○								兼1	
		地球科学	1後	2		○								兼1	メディア
		持続可能な開発のための教育(ESD)概論	1後	2		○								兼1	メディア
	数理情報と自然	集合論	1前	2		○								兼1	
		ベクトルとその応用を理解する	1前	2		○								兼1	
		行列式と数ベクトル	1前	2		○								兼1	
		はかってなんぼー学校編	1前	2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養基礎科目	分野別科目 数理情報と自然	宇宙の構成と歴史	1前	2		○									兼1	
		科学常識を考える	1前	2		○									兼1	
		自然の基本をたずねて	1前	2		○									兼1	
		科学の基本	1前	2		○									兼1	
		自然科学のための数学入門	1前	2		○									兼1	
		論理と数理パズル	1前	2		○									兼1	
		情報科学入門	1前	2		○									兼1	
		応用数学入門	1後	2		○									兼1	
		ベクトル空間と行列の対角化	1後	2		○									兼1	
		物理学入門	1後	2		○									兼1	
		歴史を変えた有機化合物	1後	2		○									兼1	
		体験しよう！かがく実験	1後	2				○							兼1	
		I C T活用	1後	2					○						兼1	
		総合科目	総合・基礎教養科目	論述の手引き	1前	2		○								
古典から学ぶ大学	1前			2		○									兼4	
I C T基礎	1前			2				○							兼2	
情報処理入門	1前			2				○							兼2	
科学的・批判的思考の実戦	1前			2		○									兼1	
資料・情報利用法	1後			2				○							兼1	
日本語表現法	1後			2				○							兼1	
クリティカル・シンキング入門	1後			2				○							兼1	
統計的な見方・考え方	1後			2		○									兼1	
コンピュータを使った統計入門	1後			2		○									兼1	
教養と美	1後			2		○									兼15	オムニバス
総合・現代教養科目	キャリアデザイン			1前	2		○									兼1
	「障害」者と人権			1前	2		○									兼1
	学校危機と心のケア			1前	2		○									兼5
	生命・環境倫理	1前	2		○									兼1		
	グローバル化と市民生活	1前	2		○									兼4	オムニバス	
	現代消費社会論	1前	2		○									兼1		
	共生社会論	1前	2		○									兼1		
	知的財産権入門	1前・後	2		○									兼1		
	ジェンダーとセクシュアリティ	1後	2		○									兼1	オムニバス	
	メディア・リテラシー演習	1後	2				○							兼2		
大阪教育大学の歴史と使命	1後	2				○							兼4			
小計(121科目)	121	—	0	242	0	—							兼117			
共通基礎科目	言語科目	英語 I a	1前	2			○							兼1		
		ドイツ語初級 a	1前	2			○							兼1		
		フランス語初級 a	1前	2			○							兼1		
		中国語初級 a	1前	2			○							兼1		
		韓国語初級a	1前	2			○							兼1		
		英語 I b	1後	2			○							兼1		
		ドイツ語初級 b	1後	2			○							兼1		
		フランス語初級 b	1後	2			○							兼1		
		中国語初級 b	1後	2			○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通基礎科目	韓国語初級b	1後		2				○								兼1	外国人留学生のみ	
	英語Ⅱ a	2前		2				○								兼1		
	外国語コミュニケーションⅠ	2前		2				○								兼1		
	ドイツ語中級 a	2前		2				○								兼1		
	フランス語中級 a	2前		2				○								兼1		
	中国語中級 a	2前		2				○								兼1		
	外国語コミュニケーションⅡ	2前・後		2				○								兼1		
	英語Ⅱ b	2後		2				○								兼1		
	ドイツ語中級 b	2後		2				○								兼1		
	フランス語中級 b	2後		2				○								兼1		
	中国語中級 b	2後		2				○								兼1		
	ドイツ語上級	3前		2				○								兼1		
	フランス語上級	3前		2				○								兼1		
	中国語上級	3後		2			○									兼1		
	日本語Ⅰ a	1前		2			○									兼1		
	日本語Ⅰ b	1後		2			○									兼1		
	日本語演習Ⅰ	2前		2				○								兼1		
日本語演習Ⅱ	2後		2				○								兼1			
小計 (27 科目)		—	0	54	0			—								兼12		
体育科目	スポーツ実技a	1前	1					○								兼5		
	スポーツ実技b	1後	1					○								兼5		
	スポーツ実技c	2前		1				○								兼3		
	スポーツ実技d	2後		1				○								兼3		
小計 (4 科目)		—	2	2	0			—								兼11		
教職基礎科目	情報機器の操作	1後	2				○			1								
	特別なニーズのある子どもの教育	1前・後	2				○									兼1		
	学校安全	2前	2				○									兼1		
小計 (3 科目)		—	6	0	0			—	1	0	0	0	0		兼2			
教職教養科目	学校教育と著作権	1前		2			○									兼1	集中	
	知的財産教育論	1前		2			○									兼1		
	国際理解教育	1前		2			○									兼1		
	人間と道徳	1前		2			○									兼1		
	環境教育論	1前		2			○									兼1		
	表現教育	1前		2				○								兼3		オムニバス
	小・中一貫教育概論	1前		2			○									兼1		
	教職実践論	1前		2			○									兼1		
	教員のための数学	1前		2			○									兼1		
	教育科学の基礎	1後		2			○									兼8		オムニバス
	ことばと教育	1後		2			○									兼1		
	アジア理解教育	1後		2			○									兼2		オムニバス
	消費者教育論	1後		2			○									兼1		
	遊びとスポーツ	1後		2			○									兼2		オムニバス
	外国人児童生徒教育	1後		2			○									兼3		オムニバス
小計 (15 科目)		—	0	30	0			—	0	0	0	0	0		兼30			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職関連科目	教職専門科目	教職入門	1前	2				○			1					兼中
		発達と教育の心理学	1前	2			○									兼1
		教育総論	1後	2			○									兼1
		教育組織論	2前	2			○									兼1
		学校の役割と経営	2前	2			○									兼1
		幼児教育課程論 I	2前	2			○				1					兼1
		生徒指導論	2前	2			○									兼1
		教育実践の研究 I	2前	2			○									兼1
		教育実践の研究 II	2後	2			○									兼1
		幼児教育指導法 I	2後	2			○									兼1
		学校教育体験実習	2通	2					○		1					兼5
		幼児教育指導法 II	3前	2			○									兼1
		幼児教育課程論 II	3後	2			○				1					兼1
		幼児臨床学	3後	2			○			1						兼1
		学習指導の心理学	3後	2			○									兼1
		教育実習	3通	5					○		1					兼2
		教職実践演習 (幼・小)	4通	2					○		1	1				兼3
学校教育発展実習	4通	2					○							兼4		
小計 (18 科目)		—	27	12	0		—		1	1	0	0	0	兼28		
保育内容指導法科目	保育内容指導法科目	健康の指導法	2後	2			○								兼2	
		環境の指導法	2前	2			○								兼1	
		表現の指導法 I	2前	1			○								兼1	
		表現の指導法 II	2後	1			○								兼1	
		人間関係の指導法	2前	2			○								兼4	
		言葉の指導法	2前	2			○								兼1	
小計 (6 科目)		—	10	0	0		—		0	0	0	0	0	兼10		
専攻専門科目	小学校教科専門科目	国語I	1前	1			○								兼1	
		国語 (書写) II	1前	1					○						兼1	
		数学	1前	2			○								兼1	
		生活	1前	2			○								兼1	
		音楽	1前	2			○				1				兼1	
		図画工作I	1前	1					○						兼1	
		幼児の知的発達	1前	2			○			1					兼1	
		幼児の美的発達	1前	2			○								兼1	
		社会	1前・後	2			○								兼3	
		理科I	1前・後	2					○						兼4	
		理科II	1前・後	2					○						兼4	
		家庭	1前・後	2			○								兼3	
		体育I	1前・後	1								○			兼1	
		体育II	1前・後	1								○			兼1	
		図画工作II	1後	1					○						兼1	
		図画工作III	2前	1					○						兼1	
図画工作IV	2前	1					○						兼1			
小計 (17 科目)		—	12	14	0		—		1	1	0	0	0	兼16		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻専門科目	幼稚園教育専門科目	幼児心理学特講Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		幼児教育実践総論	1前	2		○									兼3 集中・オムニバス
		表現指導基礎演習Ⅰ	2前	1			○			1					集中
		幼児教育実践研究Ⅰ	2前	1			○			1					集中
		幼児教育研究調査法Ⅰ	2前	1			○			1					集中
		保育内容教材研究Ⅳ（遊びと仲間関係）	2前	2		○									兼1 隔年・集中
		表現指導基礎演習Ⅱ	2後	1			○				1				兼1 オムニバス
		幼児教育学特講Ⅰ	2後	2		○					1				兼1 オムニバス
		幼児教育研究調査法Ⅱ	2後	1			○				1				集中
		保育内容教材研究Ⅰ（身体発達）	2後	2		○									兼1 隔年
		幼児教育実践研究Ⅱ	3前	1			○				1				集中
		幼児教育統計演習	3前	1			○								兼2 オムニバス
		保育内容演習Ⅰ	3前	1			○				1				
		幼児教育学演習Ⅰ	3前	1			○				1				
		幼児教育実践研究Ⅲ	3前	1			○				1				集中
		幼児心理学演習Ⅰ	3前	1			○				1				
		障害共生保育論	3前	2		○									兼2 隔年・集中・オムニバス
		保育内容実践演習Ⅲ（自然認識）	3前	1		○									兼1 隔年
		保育内容実践演習Ⅳ（言葉と文学）	3前	1			○								兼2 隔年・オムニバス
		保育内容実践演習Ⅴ（音楽）	3前	1			○				1				兼1
		表現指導演習Ⅰ	3後	1			○								兼1
		保育内容演習Ⅱ	3後	1			○				1				
		幼児教育学演習Ⅱ	3後	1			○				1				
		幼児心理学演習Ⅱ	3後	1			○				1				
		表現指導演習Ⅱ	4前	1			○								兼2 オムニバス
		保育内容特講	4前	2			○				1				
		幼児教育学特講Ⅱ（世界の幼児教育）	4前	2			○				1				
		保育内容演習Ⅲ	4前	1			○				1				
		幼児教育学演習Ⅲ	4前	1			○				1				
		幼児教育実践研究Ⅳ	4前	1			○				1	2			集中
		幼児教育実践研究Ⅴ	4前	1			○				1	2			集中
		幼児心理学演習Ⅲ	4前	1			○				1				
		保育内容演習Ⅳ	4後	1			○					1			
幼児教育学演習Ⅳ	4後	1			○					1					
幼児心理学演習Ⅳ	4後	1			○				1						
小計（35科目）		—	13	30	0		—		1	2	0	0	0	兼17	
	卒業論文	4通	6						1	2				指導教員	
	合計（247科目）	—	76	384	0		—		1	2	0		0	兼243	

教育課程等の概要(事前伺い)

(第二部小学校教員養成課程)(既設)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養基礎科目	教育・心理	部落問題概論Ⅰ	1前	2		○									兼1
		人間と教育	1後	2		○			1						
		日常生活の行動原理	1後	2		○			1						
		部落問題概論Ⅱ	1後	2		○									兼1
	人文・社会	日本文学入門	1前	2		○									兼1
		日本国憲法	1前	2		○			1						
		経済学	1前	2		○			1						
		現代の倫理学	1前	2		○									兼1
		アジア文化論	1前	2		○									兼1
	自然・数理	生物の情報	1前	2		○									兼1
		数学概論	1後	2		○			1						
		身の回りの物理	1後	2		○			1						
		物質の構造と性質	1後	2		○									兼1
		自然誌	1後	2		○									兼1
	健康・スポーツ・生活	芸術Ⅰ〔音楽〕	1前	2		○			1						集中
		芸術Ⅱ〔邦楽〕	1後	2							○				兼1
		芸術Ⅲ〔演劇〕	1後	2				○							兼1
		芸術Ⅳ〔美術〕	1後	2				○							兼1
		健康と科学	1後	2		○				1					
		小計(19科目)	—	2	36	0		—	3	5	0	0	0		兼11
総合科目	ゼミナール	1前	2		○			1							
	身体表現とコミュニケーション	1前	2		○									兼1	
	異文化理解とコミュニケーション	1前	2		○				1						
	ジェンダーとセクシュアリティ	1前	2		○			1	1						
	特別総合科目Ⅰ〔大阪学〕	1前	2		○			2						集中	
	特別総合科目Ⅱ〔大阪の教育実践〕	1前	2				○	1						集中	
	特別総合科目Ⅲ〔海外教育実習〕	1前	2				○	1						集中	
	特別総合科目Ⅳ〔野外活動実習〕	1前	2				○	2	2					集中	
	言語表現とコミュニケーション	1後	2		○			1							
	メディア・エデュケーション	1後	2		○									兼1	
	小計(10科目)	—	2	18	0		—	6	4	0	0	0		兼2	
共通基礎科目	外国語科目	英語ⅠA	1前	1			○								兼2
		ドイツ語ⅠA	1前	1			○								兼1
		中国語ⅠA	1前	1			○								兼1
		韓国語ⅠA	1前	1			○								兼1
		英語ⅠB	1後	1			○								兼2
		ドイツ語ⅠB	1後	1			○								兼1
		中国語ⅠB	1後	1			○								兼1
		韓国語ⅠB	1後	1			○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎科目	外国語科目	英語ⅡA	2前	1				○								兼1
		外国語コミュニケーションⅠ	2前	1				○								兼1
		ドイツ語ⅡA	2前		1				○							兼1
		中国語ⅡA	2前		1				○							兼1
		韓国語ⅡA	2前						○							兼1
		英語ⅡB	2後	1					○							兼1
		外国語コミュニケーションⅡ	2後	1					○							兼1
		ドイツ語ⅡB	2後		1				○							兼1
		中国語ⅡB	2後		1				○							兼1
		韓国語ⅡB	2後						○							兼1
	小計(18科目)		—	5	11	0		—		0	0	0	0	0	0	兼20
	体育科目	スポーツ実技Ⅰ	1前	1					○		1					集中
		スポーツ実技Ⅱ	1後	1					○		1					
小計(2科目)			—	2	0	0		—		0	1	0	0	0		
ICT科目	情報処理入門	1前	2			○									兼1	
	ICT教育入門	1前	2			○									兼1	
	小計(2科目)		—	4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼2	
教職関連科目	教科専門科目	国語Ⅰ(書写を含む。)	1前		2			○			1					
		社会(地理Ⅰ)	1前		2			○								兼1
		数学Ⅰ	1前	2					○			1				兼2
		理科Ⅰ	1前	2					○			1				
		社会(地理Ⅱ)	1後		2				○			1				
		数学Ⅱ	1後	2					○			1				兼2
		国語Ⅱ	2前	2					○			1				
		理科Ⅱ	2前	2					○			1	1			
		生活	2前	2					○			4	1			
		基礎造形Ⅰ	2前	2					○				1			
		基礎造形Ⅱ	2前	2					○				1			
		音楽Ⅰ	2前		1					○	○					兼2
		音楽Ⅱ	2前		1						○	1				
		体育Ⅰ	2前		1						○					兼1
		体育Ⅲ	2前		1						○					兼1
		社会(歴史Ⅰ)	2後		2				○							兼1
		社会(歴史Ⅱ)	2後		2				○							兼1
		音楽Ⅲ	2後		1						○					兼2
		体育Ⅱ	2後		1						○		1			
		体育Ⅳ	2後		1						○		1			
	家庭	3前・後	2					○							兼6	
小計(21科目)		—	18	17	0		—		6	4	0	0	0	0	兼18	
教職専門科目	教職入門	1前	2					○								
	教育総論	2前	2					○			1					
	発達と教育の心理学	3前	2					○			1					
	教育組織論	3前	2					○							兼1	
	学校の役割と経営	3前	2					○							兼1	
	生徒指導論	3前	2					○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
系列専門科目	教育・心理	カウンセリング技法Ⅰ	4後	2		○				1					兼1 兼1
	教育学研究Ⅰ	5前	2			○			1						
	教育心理学演習Ⅰ	5前	2				○		1	1					
	カウンセリング技法Ⅱ	5前	2			○									
	特別支援教育演習Ⅰ	5前	2				○			1					
	教育学研究Ⅱ	5後	2				○			1					
	教育心理学演習Ⅱ	5後	2					○	1	1					
	カウンセリング技法Ⅲ	5後	2				○								
	特別支援教育演習Ⅱ	5後	2					○		1					
	小計(15科目)	—	0	30	0		—		2	2	0	0	0	兼3	
人文・社会	国語学	3前		2		○								兼1	
	歴史学特講Ⅰ	3前		2			○							兼1	
	法学特講Ⅰ	3前		2			○		1						
	地理学実習	3前		1						○	1				
	野外調査実習	3前		1							○	1		集中	
	哲学特講	3後		2			○							兼1	
	経済学特講Ⅰ	3後		2				○	1						
	国文学	4前		2				○						兼1	
	歴史学特講Ⅱ	4前		2				○						兼1	
	地理学特講	4前		2					○	1					
	社会科教育研究Ⅰ	4前		2					○	2					
	小学校英語教育研究	4前		2					○	1					
	国語・文学研究	4後		2					○	1					
	倫理学特講	4後		2					○	1					
	法学特講Ⅱ	4後		2					○	1					
	経済学特講Ⅱ	4後		2					○	1					
	社会科教育研究Ⅱ	4後		2						○	1			兼1	
	国語科教育研究Ⅰ	5前		2					○	1					
	歴史学演習Ⅰ	5前		2						○	1				
	法学演習Ⅰ	5前		2							○	1			
	経済学演習Ⅰ	5前		2								○	1		
	地理学演習Ⅰ	5前		2									○	1	
	小学校英語教育演習Ⅰ	5前		2										○	兼1
	国語科教育研究Ⅱ	5後		2						○	1				
	歴史学演習Ⅱ	5後		2							○	1			
	法学演習Ⅱ	5後		2								○	1		
	経済学演習Ⅱ	5後		2									○	1	
	地理学演習Ⅱ	5後		2										○	1
	小学校英語教育演習Ⅱ	5後		2											○
小計(29科目)	—	0	56	0		—		3	0	0	0	0	0	兼8	
自然・数理	基礎数学Ⅰ	3前		2			○							兼1	
	基礎数学Ⅱ	3後		2				○						兼1	
	物理学Ⅰ	3前		2				○		1					
	物理学Ⅱ	3後		2					○	1					
	化学Ⅰ	3前		2					○	1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
系列専門科目	自然・数理	化学II	3後	2		○			1						兼1
		生物学I	3前	2		○			1						
		生物学II	3後	2		○			1						
		宇宙と地球I	3前	2		○				1					
		宇宙と地球II	3前	2		○			1						
		数学教育実践論	4前	2		○				1					
		物理学実験	4前	1				○		1					
		化学実験	4前	1				○		1					
		生物学実験	4前	1				○		1					
		地学実験	4前	1				○		1					
		理科教育研究I	4前	2			○			2					兼1
		現代物理学	4後	2			○								
		数学・数学教育演習I	5前	2				○			1				
		地学演習	5前	2				○		1					
		数学・数学教育演習II	5後	2				○			1				
		物理学演習	5後	2				○			1				
		生物学演習	5後	2				○		1					
		理科教育研究II	5後	2			○				1				
		理科教育学演習	5後	2				○		1					
		小計 (24 科目)	—	0	44	0		—		2	2	0	0	0	
芸術・スポーツ・生活・健康	音楽実技 I 造形表現 I 書道 I 音楽実技 II 造形表現 II 書道 II 工芸 学校保健学 保健指導論 音楽実技 III メディアと造形表現 健康・スポーツ科学特論 音楽実技 IV 美術教育実践 音楽演奏研究 I 美術教育研究 I 健康・スポーツ科学演習 I 音楽演奏研究 II 美術教育研究 II 健康・スポーツ科学演習 II	3前	1			○		1						兼3	
		3前	1		○				1					兼1	
		3前	1				○							兼3	
		3後	1			○		1						兼1	
		3後	1		○				1					兼1	
		3後	1				○							兼1	
		3後	1				○							兼1	
		3後	2			○								隔年	
		3後	2			○								隔年	
		4前	1				○		1					兼3	
		4前	2			○								兼1	
		4前	2			○				1					
		4後	1				○		1					兼3	
		4後	2					○		1					
		5前	2				○		1					兼3	
		5前	2				○			1					
		5前	2				○			1					
		5後	2				○		1					兼3	
		5後	2				○			1					
		5後	2				○			1					
小計 (20 科目)	—	0	31	0		—		1	2	0	0	0	兼24		
卒業論文		5通	6					6	5					指導教員	
合計 (201 科目)		—	92	272	0		—	6	5	0	0	0	兼77		

教育課程等の概要 (事前伺い)														
(教育学部教養学科) (既設)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習・実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養基礎科目	思索と芸術	漱石を読む	1前	2		○								兼1
		日本人の宗教観	1前	2		○								兼1
		平安朝文学世界への誘い	1前	2		○								兼1
		日本漢文の世界	1前	2		○			1					
		コンサートへの誘い	1前	2				○	5	4				集中
		和歌の表現世界を知る	1前	2			○							兼1
		原文で読む中国古典	1前	2			○		1					
		読むための視点	1後	2			○		1					
		日本近代文学における個性の闘い	1後	2			○							兼1
		ドイツ文学を読む	1後	2			○		1					
		芸術理論：フランス近代美学から	1後	2			○		1					
		民族と音楽：東南アジアを中心に	1後	2				○	1					
		ユーラシア美術史	1後	2			○							兼1
		アジアの中の日本美術史	1後	2			○							兼1
		日本語史のイロハ	1後	2			○					1		
国際と地域	多文化共生の社会を目指して	1前	2			○							兼1	
	日本事情	1前	2			○		1						
	海外文化研究	1前	2				○	1	1				集中	
	国際関係論入門	1前	2			○							兼1	
	ヨーロッパ文明とは何か	1前	2			○		1						
	暮らしの環境と地図	1前	2			○							兼1	
	海岸の地形	1前	2			○		1						
	Cross-cultural Communication	1前	2				○	1						
	Japanese Culture	1前・後	2				○	1						
	国際理解	1後	2			○			1					
	ヨーロッパドイツの窓から	1後	2			○				1			兼1	
	ヨーロッパフランスの窓から	1後	2			○				1				
アメリカと世界	1後	2			○		1							
国際法入門	1後	2			○							兼1		
ヨーロッパから見た日本	1後	2			○		1							
歴史と社会	日本国憲法	1前	2			○			1				兼1	
	持続発展教育と世界遺産	1前	2			○							兼1	
	日本美術の流れ	1前	2			○							兼1	
	地域から見る世界史	1前	2			○			1					
	東アジアの歴史	1前	2			○							兼1	
	西南アジアの歴史	1前	2			○							兼1	
	地域から見る日本史	1後	2			○		1						
	地域史としての考古学	1後	2			○							兼1	
	日本科学技術史概論	1後	2			○		1						
	歴史の中のサイエンス	1後	2			○							兼1	
	Media Studies	1後	2				○	1						
	近現代外交史	1後	2			○							兼1	
政治と社会	1後	2			○							兼1		
人間と生活	部落問題概論Ⅰ	1前	2			○		1						
	部落問題概論Ⅱ	1後	2			○		1						
	平和のための教育	1前	2			○		1						
	ライフサイクルの心理学	1前	2			○			1					
	グローバル化時代の人間と社会	1前	2			○							兼1	
	現代社会学の方法と実践	1前	2			○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養基礎科目	分野別科目 人間と生活	現場に活かすスポーツ実戦論	1前	2		○			1									
		健康科学への招待	1前	2		○			2	1						オムニバス		
		生活環境をさぐる	1前	2		○			3							オムニバス		
		地域連携学校教育入門ー現代社会を生きるー	1前	2		○										兼1		
		身の回りのサイエンス	1前	2		○										兼1		
		健康科学論	1前	2		○										兼1	メディア	
		Discussion Skills	1前	2			○		1									
		問題解決のためのデータ分析入門	1前	2		○											兼1	メディア
		光の科学と人間	1前	2		○											兼1	メディア
		インターンシップとキャリア	1前	2				○		1							集中	
		障がい者支援入門	1前	2		○					1							
		貨幣とわれわれの社会	1後	2		○											兼1	
		科学リテラシーと市民生活	1後	2		○			3	4							オムニバス	
		Academic Presentation Skills	1後	2			○		2									
		都市防災対策と防災教育	1後	2		○											兼1	メディア
		心理生理学	1後	2		○											兼1	メディア
		性倫理と性教育	1後	2		○											兼1	メディア
		野外教育論	1後	2		○											兼1	メディア
		環境教育概論	1後	2		○											兼1	メディア
		対人コミュニケーションの心理学	1後	2		○			1									
生命と環境	里山の自然誌	1前	2		○			1										
	水と環境を考える	1前	2		○			1										
	生命と共生	1前	2		○											兼1		
	地球と災害	1前	2		○											兼1		
	DNAを中心とした生命科学	1後	2		○			1										
	はかつてなんぼー環境をはかる	1後	2		○			1										
	地球と環境	1後	2		○			1										
	ミクロの生物学入門	1後	2		○											兼1		
	大阪の環境と地球環境	1後	2		○											兼1		
	自然史博物館への招待	1後	2		○											兼1		
	生物学と医学の出会い	1後	2		○											兼1		
	地球科学	1後	2		○											兼1	メディア	
	持続可能な開発のための教育(ESD)概論	1後	2		○											兼1	メディア	
数理情報と自然	集合論	1前	2		○			1										
	ベクトルとその応用を理解する	1前	2		○			1										
	行列式と数ベクトル	1前	2		○			1										
	はかつてなんぼー学校編	1前	2		○			1										
	宇宙の構成と歴史	1前	2		○			1										
	科学常識を考える	1前	2		○			1										
	自然の基本をたずねて	1前	2		○				1									
	科学の基本	1前	2		○				1									
	自然科学のための数学入門	1前	2		○			1										
	論理と数理パズル	1前	2		○			1										
	情報科学入門	1前	2		○			1										
	応用数学入門	1後	2		○			1										
	ベクトル空間と行列の対角化	1後	2		○						1							
	物理学入門	1後	2		○											兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養基礎科目	分野別科目 教養情報と自然	歴史を変えた有機化合物	1後	2		○			1						
		体験しよう！かがく実験	1後	2				○	1						
		ICT活用	1後	2					○	1					
	総合科目 総合・基盤教養科目	論述の手引き	1前	2		○			1						
		古典から学ぶ大学	1前	2		○			4						
		ICT基礎	1前	2				○	1	1					
		情報処理入門	1前	2				○	1						兼1
		科学的・批判的思考の実戦	1前	2		○			1						
		資料・情報利用法	1後	2			○			1					
		日本語表現法	1後	2			○		1						
		クリティカル・シンキング入門	1後	2			○								兼1
		統計的な見方・考え方	1後	2		○			1						
		コンピュータを使った統計入門	1後	2		○				1					
	教養と美	1後	2		○			7	8						
	総合・現代教養科目	キャリアデザイン	1前	2		○				1					
		「障害」者と人権	1前	2		○									兼1
		学校危機と心のケア	1前	2		○			2	3					オムニバス
		生命・環境倫理	1前	2		○									兼1
		グローバル化と市民生活	1前	2		○			3	1					オムニバス
		現代消費社会論	1前	2		○			1						
		共生社会論	1前	2		○				1					
知的財産権入門		1前・後	2		○			1							
ジェンダーとセクシュアリティ		1後	2		○				1					オムニバス	
メディア・リテラシー演習		1後	2			○		1		1					
大阪教育大学の歴史と使命	1後	2		○			4								
小計(121科目)	—	0	242	0	—	—	38	28	4	0	0	0	兼47		
共通基礎科目	言語科目	英語 I a	1前	2			○		2	4					兼2
		英語 I b	1後	2			○		2	4					兼2
		英語 II a	2前	2			○		2	1					
		英語 II b	2後	2			○			1					
		外国語コミュニケーション I	2前	2			○		1	3					兼2
		外国語コミュニケーション II	2前・後	2			○		1	2					兼1
		韓国語初級a	1前	2			○								兼1
		韓国語初級b	1後	2			○								兼1
		中国語初級 a	1前	2			○			1					兼1
		中国語初級 b	1後	2			○			1					兼1
		中国語中級 a	2前	2			○								兼1
		中国語中級 b	2後	2			○								兼1
		中国語上級	3後	2			○								兼1
		ドイツ語初級 a	1前	2			○		1						兼1
		ドイツ語初級 b	1後	2			○		1						兼1
		ドイツ語中級 a	2前	2			○		1						
		ドイツ語中級 b	2後	2			○		1						
		ドイツ語上級	3前	2			○		1						
		フランス語初級 a	1前	2			○			1					兼1
		フランス語初級 b	1後	2			○			1					兼1
		フランス語中級 a	2前	2			○								兼1
		フランス語中級 b	2後	2			○								兼1
		フランス語上級	3前	2			○		1						
日本語 I a	1前	2			○		1								
日本語 I b	1後	2			○		1								
日本語演習 I	2前	2			○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎科目	言語科	日本語演習Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		小計(27科目)	—	0	54	0	—		7	1	0	0	0		兼10	
	体育科目	スポーツ実技a	1前	1				○	4							兼5
		スポーツ実技b	1後	1				○	3							兼5
	小計(2科目)	—	2	0	0	—		5	0	0	0	0			兼7	
教育職員免許状取得に関する科目	教職に関する科目	教職入門	2前	2			○								兼1	
		教育総論	1後	2			○								兼1	
		発達と教育の心理学	3前	2			○								兼1	
		学校の役割と経営	2後	2			○								兼1	
		教育組織論	2後	2			○								兼1	
		教育実践の研究Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		教育実践の研究Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		学習指導の心理学	3後	2			○								兼1	
		中等国語科教育法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		中等国語科教育法Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		中等社会科教育法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		中等社会科教育法Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		数学科教育法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		数学科教育法Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		中等理科教育法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		中等理科教育法Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		中等音楽科教育法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		中等音楽科教育法Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		美術科教育法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		美術科教育法Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		保健体育科教育法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		保健体育科教育法Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		中等家庭科教育法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		中等家庭科教育法Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		英語科教育法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		英語科教育法Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		道德教育の研究	3後	2			○								兼1	
		生徒指導論	2後	2			○								兼1	
		生徒指導の心理学	3後	2			○								兼1	
		教育実習(中・高)	4前	5				○							兼1 集中	
		教育実習(高)	4前	3				○							兼1 集中	
		教職実践演習(教諭)	4後	2				○							兼7	
	小計(32科目)	—	0	68	0	—		0	0	0	0	0		兼29		
るには教科関係科目 目指す職又	学校安全	2前	2			○									兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0			兼1	
るには養 科関係教 護 目指す職又	学校安全	2前	2			○									兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—									兼1	
専門教育科目	通学科目共	基礎セミナー	1前・後	2			○	○	○	38	21	4	0	0		
		小計(1科目)	—	2	0	0	—			38	21	4	0	0		
専攻専門科目	人間科学専攻	基礎心理学	1前	2			○				1					
		生涯教育原論	1後	2			○			1						
		エルゴノミクス	2前	2			○								兼1	
		家族心理学	2後	2			○			1						
		感覚・知覚心理学	2前	2			○								兼1	
		生涯教育基礎論Ⅰ	2前	2			○			1						
		生涯教育実践研究Ⅰ	2後	2				○	2	1					オムニバス	
	生涯教育特講Ⅰ	2後	2			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門 教育 科目	人間 科学 専攻	生涯教育と高等教育	2後	2		○				1								
		生涯人間発達論	2後	2		○				1								
		資料・情報利用法	2後	2		○					1							
		心理学基礎実験Ⅰ	2前	2					○	1		1					オムニバス	
		心理学基礎実験Ⅱ	2後	2					○		1	1					オムニバス	
		心理学統計法	2前	2			○									兼1		
		哲学的人間学	2前	2			○									兼1		
		図書館情報学概論	2前	2			○					1						
		発達人間学基礎演習	2前	2				○			1	2						
		比較行動学	2前	2			○									兼1	集中	
		メディア文化論	2前	2			○									兼1	集中	
		介護概論	2前	2			○									兼1		
		社会教育論	2後	2			○									兼1		
		社会福祉原論	2後	2			○									兼1		
		社会保障論	2後	2			○				1							
		障害者福祉論	2後	2			○									兼1		
		心理学研究法	2後	2				○			1		1					オムニバス
		図書館サービス概論	2後	2			○					1						
		図書館情報技術論	2前	2			○					1						
		図書館情報資源概論	2前	2			○									兼1		
		図書館情報資源特講	2後	2			○									兼1		
		生涯教育計画論Ⅰ	2前	2			○				1							
		生涯教育基礎論Ⅱ	2前	2			○					1						
		精神保健福祉論	2前	2			○				1							
		地域福祉論	2前	2			○					1						
		発達心理学演習	2後	2				○				1						
		福祉教育学	2前	2			○					1						
		対人行動学	3前	2			○				1							
		学習社会論	3後	2			○				1							
		教育調査Ⅰ	3前	2						○	1							
		教育調査Ⅱ	3後	2						○	1							
		教育人間学	3後	2			○				1							
		サイコエデュケーション	3後	2				○				1						
		生涯教育演習Ⅰ	3前	2				○			2	1						
		生涯教育演習Ⅱ	3後	2				○			2	1						
		生涯教育計画論Ⅱ	3前	2			○									兼1	集中	
		生涯教育実践研究Ⅱ	3前	2			○				2	1						
		生涯教育特講Ⅱ	3前	2			○									兼1	集中	
		生涯教育特講Ⅲ	3前	2			○									兼1		
		心理学実験演習Ⅰ	3前	2				○			1	1	1					
		心理学実験演習Ⅱ	3後	2				○			1	1	1					
		発達人間学研究法Ⅰ	3前	2				○			1	2						
		発達人間学研究法Ⅱ	3後	2				○			1	2						
		芸術療法	3後	2						○	1							
		産業・安全心理学	3前	2			○									兼1		
児童サービスと資料	3前	2			○				1									
児童福祉論	3後	2			○					1								
社会教育課題研究A	3前	2				○			1									
社会教育課題研究B	3後	2				○								兼1				
社会教育課題研究C	3後	2				○				1								
社会心理学	3後	2			○					1								
社会福祉援助技術論	3後	2				○				1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目 専攻専門科目 文化研究専攻	中国言語文化研究A	3後		2				○		1							
	中国言語文化研究B	3後		2				○			1						
	中国言語文化研究法IA	3前		2				○		1							
	中国言語文化研究法IB	3前		2				○			1						
	日本語研究A	3前		2			○					1					
	日本語研究B	3後		2				○					1				
	日本語文化研究法IA	3前		2				○		1							
	日本語文化研究法IB	3前		2			○			1							
	日本語文化研究法IC	3前		2				○				1					
	日本文学研究A	3後		2				○		1							
	日本文学研究B	3後		2				○		1							
	中国言語文化研究法II A	4前		2				○		1							
	中国言語文化研究法II B	4後		2				○		1							
	中国言語文化研究法II C	4前		2				○			1						
	中国言語文化研究法II D	4後		2				○			1						
	日本語文化研究法II A	4前		2				○		1							
	日本語文化研究法II B	4後		2				○		1							
	日本語文化研究法II C	4前		2				○		1							
	日本語文化研究法II D	4後		2				○		1							
	日本語文化研究法II E	4前		2				○				1					
	日本語文化研究法II F	4後		2				○					1				
	小計 (31科目)		—	0	62	0			—		3	1	1	0	0		兼4
	欧米言語文化コース	スピーチ・コミュニケーション I	1前		2				○			1					
		スピーチ・コミュニケーション II	1後		2				○				1				
		ドイツ語特習 I	1前		2				○		1						
		ドイツ語特習 II	1後		2				○		1						
フランス語特習 I		1前		2				○			1						
フランス語特習 II		1後		2				○				1					
英語講読 I		1前		2				○		1							
英語講読 II		1後		2				○		1							
ドイツ語会話 I A		2後		2				○		1						兼1	
ドイツ語会話 I B		2後		2				○								兼1	
ドイツ語学概論 I		2前		2			○									兼1	
ドイツ語学概論 II		2後		2			○			1							
ビジネスコミュニケーション論 I		2前		2				○			1						
ビジネスコミュニケーション論 II		2後		2				○				1					
フランス語会話 I		2前		2				○								兼1	
フランス語会話 II		2後		2				○								兼1	
フランス語圏の文学研究 I		2前		2			○				1						
フランス語圏の文学研究 II		2後		2			○				1						
フランス語表現法 I		2前		2				○			1						
フランス語表現法 II		2後		2				○			1						
フランス事情		2前		2				○				1					
英語学概論 I		2前		2			○			1							
英語学概論 II		2後		2			○			1							
英米地域研究概論 I		2前		2			○			1							
英米地域研究概論 II		2後		2			○				1						
応用言語学演習 I		2前		2				○			1						
応用言語学演習 II	2後		2				○			1							
応用言語学概論 I	2前		2			○				1							
応用言語学概論 II	2後		2			○				1							
言語学演習 I	2後		2				○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手							
専 門 教 育 科 目	専 攻 専 門 科 目	文 化 研 究 専 攻	欧 米 言 語 文 化 コ ー ス	米文学史 I	2前	2		○				1								
				米文学史 II	2後	2		○					1							
				アメリカ地域研究 I	3前	2				○				1						
				アメリカ地域研究 II	3後	2				○			1							
				イギリス地域研究 I	3前	2				○										兼1
				イギリス地域研究 II	3後	2				○										兼1
				ドイツ語会話 II A	3前	2				○										兼1
				ドイツ語会話 II B	3後	2				○										兼1
				ドイツ語圏の文化演習 I	3前	2				○			1							
				ドイツ語圏の文学演習 I	3後	2				○			1							
				ドイツ語圏の文学研究 A	3前	2				○				1						
				ドイツ事情概説	3前	2				○			1							兼1
				ドイツ文芸学	3後	2				○			1							
				フランス語科教育法 I	3前	2				○			1							
				フランス語科教育法 II	3前	2				○				1						兼1
				フランス語会話 III	3前	2					○									兼1
				フランス語会話 IV	3後	2					○									兼1
				フランス語学概論 I	3前	2				○										兼1
				フランス語学概論 II	3後	2				○										兼1
				フランス語圏の文学演習 I	3後	2					○			1						
				フランス語圏の文学演習 II	3前	2					○			1						兼1
				フランス語圏の文明演習 I	3前	2					○									兼1
				フランス語圏の文明演習 II	3後	2					○									兼1
				フランス語圏の文明研究 III	3前	2				○										兼1
				フランス語圏の文明研究 IV	3後	2				○										兼1
				フランス語表現法 III	3前	2					○									兼1
				フランス語表現法 IV	3後	2					○									兼1
				英語学演習 I	3前	2					○		1							
				英語学演習 II	3後	2					○		1							
				英文学研究法 I	3前	2					○			1						
				英文学研究法 II	3後	2					○			2						
				言語学演習 II	3前	2					○									兼1
				言語学研究法 I	3前	2				○			1							
				言語学研究法 II	3後	2				○			1							
				日欧文化比較研究A	3前	2				○										兼1
				日欧文化比較研究B	3後	2				○										兼1
				米文学研究 I	3前	2					○			1						兼1
				米文学研究 II	3後	2					○			1						
				ドイツ語圏の言語文化研究法	4後	2					○		1							
				フランス語科教育法 IV	4後	2					○		1							
				フランス語圏の言語・文学・文明研究法	4通	4					○		1	1						
				フランス語圏の文学演習 III	4前	2					○		1							
				フランス語圏の文学演習 IV	4後	2					○		1							
				フランス語圏の文明演習 III	4前	2					○									兼1
				フランス語圏の文明演習 IV	4後	2					○									兼1
				英語学・言語学特講 I	4前	2					○		2	2						
				英語学・言語学特講 II	4後	2					○		2	2						
英米地域研究特講 I	4前	2					○		1	1										
英米地域研究特講 II	4後	2					○		1	1										
英米文学特講 I	4前	2					○		1	2										
英米文学特講 II	4後	2					○		1	2										
応用言語学特講 I	4前	2					○			1										

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手						
専 門 教 育 科 目	専 攻 専 門 科 目	数 理 科 学 専 攻	微分積分学Ⅲ	1後	2		○									兼1			
			微分積分学Ⅳ	1後	2		○										兼1		
			応用数理概論	2通	4			○			1								
			解析学概論	2通	4			○										兼1	
			解析学概論演習	2通	2				○									兼1	
			幾何学概論	2通	4				○		1							兼1	オムニバス
			幾何学概論演習	2通	2					○	1							兼1	オムニバス
			代数学概論	2通	4				○		1							兼1	オムニバス
			代数学概論演習	2通	2					○	1							兼1	オムニバス
			数理情報Ⅰ	2前	2				○		2								
			数理情報Ⅱ	2後	2				○		1								
			応用数理Ⅰ	3前	2				○		1								
			応用数理Ⅰ演習	3前	2					○	2								
			応用数理Ⅱ	3後	2				○		1								
			応用数理Ⅱ演習	3後	2					○	2								
			応用数理Ⅲ	3後	2				○		1		1						
			解析学Ⅰ	3前	2				○									兼1	
			解析学Ⅰ演習	3後	2					○					1			兼1	
			解析学Ⅱ演習	3後	2					○						1			
			確率論	3前	2				○			1							
			確率論演習	3後	2					○			1						
			幾何学Ⅰ	3前	2				○		1								
			幾何学Ⅱ演習	3後	2					○								兼1	
			幾何学Ⅰ演習	3前	2					○	1								
			情報解析	3前	2				○		1								
			情報解析演習	3前	2					○	1								
			数学特別講義Ⅱ	3前	2				○									兼1	集中
			代数学Ⅰ	3前	2				○									兼1	
			代数学Ⅰ演習	3前	2					○								兼1	
			代数学Ⅱ演習	3後	2					○	1								
			応用数理特論Ⅰ	4前	2				○		1								
			応用数理特論Ⅰ演習	4後	2					○	1								
			応用数理特論Ⅱ	4前	2				○		1								
			応用数理特論Ⅱ演習	4後	2					○	1								
			応用数理特論Ⅲ	4前	2				○		1								
			応用数理特論Ⅲ演習	4後	2					○	1								
			解析学特論Ⅰ	4前	2				○			1							
			解析学特論Ⅰ演習	4前	2					○	1								
			解析学特論Ⅱ演習	4後	2					○				1					
			確率論特論	4前	2				○			1							
			確率論特論演習	4後	2					○			1						
			幾何学特論Ⅰ	4前	2				○		1								
			幾何学特論Ⅰ演習	4後	2					○	1								
			幾何学特論Ⅱ演習	4後	2					○	1								
			情報解析特論	4前	2				○		1								
			情報解析特論演習	4後	2					○	1								
			数学特別講義Ⅲ	4前	2				○									兼1	集中
			数学特別講義Ⅳ	4後	2				○					1					
			代数学特論Ⅰ	4前	2				○		1								
			代数学特論Ⅰ演習	4後	2					○	1								
			代数学特論Ⅱ演習	4後	2					○	1								
			小計(55科目)	-	28	90	0	-	-	-	4	1	1	0	0	兼17			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手						
専 門 教 育 科 目	専 攻 専 門 科 目	自 然 研 究 専 攻	応用統計学	1後	2		○			1									
			基礎数学	1前	2		○			1									
			自然システム実験I	1前	1				○	2	1							オムニバス	
			生命科学実験I	1前	1				○		1								
			物質化学概説I	1後	2			○		1									
			物質化学実験I	1後	1					○		1							
			物理科学概説I	1前	2			○		1									
			物理科学概説II	1後	2			○		1									
			物理科学実験I	1後	1					○	1	1							
			宇宙科学I	2前	2			○		1									
			応用数学I	2前	2				○			1							
			応用数学II	2後	2				○			1							
			解析力学	2後	2				○			1							
			基礎物理化学	2前	2				○		1								
			基礎有機化学	2前	2				○			1							
			固体地球科学I	2後	2				○			1							
			細胞遺伝学	2前	2				○									兼1	
			細胞生物学	2前	2				○			1							
			自然システム概説I	2前	2				○		1								
			自然システム概説II	2後	2				○		1								
			自然科学実験I	2前	2						○	6	2						
			自然科学実験II	2後	2						○	6	3						オムニバス
			初等量子論	2前	2				○		1								
			水圏科学I	2後	2				○		1								
			生体物質化学I	2後	2				○		1								
			生物圏科学	2後	2				○			1							
			生命科学概説I	2前	2				○		1								
			生命科学概説II	2後	2				○			1							
			大気圏科学I	2前	2				○		1								
			電磁気学I	2前	2				○									兼1	
			電磁気学II	2後	2				○									兼1	
			動物発生学	2後	2				○		1								
			熱力学	2前	2				○			1							
			物質化学概説II	2前	2				○		1								
			物理化学I	2後	2				○		1								
			無機化学	2前	2				○		1								
			有機物質化学I	2後	2				○		1								
			宇宙科学II	3後	2				○		1								
			機器分析化学	3後	2				○			1							
			固体地球科学II	3後	2				○									兼1	
自然システム演習	3前	2					○	2	1						オムニバス				
自然システム実験II	3後	2						○	2	1									
自然システム野外実習	3前	2						○	1						集中				
集団生物学II	3前	2				○			1										
情報処理演習	3前	2					○		3						オムニバス				
植物生理学	3前	2				○		1											
水圏科学II	3前	2				○		1											
生体物質化学II	3前	2				○		1											
生命科学演習	3後	2					○	1											
生命科学実験II	3前	2						○	1										
生命科学実験III	3前	2						○	1										
生命科学実験IV	3前	2						○	1										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	自然研究専攻 専攻専門科目	生命科学実験Ⅴ	3後	2				○	1							
		生命科学実験Ⅵ	3後	2				○		1						
		大気圏科学Ⅱ	3後	2			○			1						
		統計物理学	3前	2			○								兼1	集中
		物質化学実験Ⅱ	3前	4					○	2	1					オムニバス
		物質化学実験Ⅲ	3後	4					○	4	1					
		物性物理学	3前	2			○								兼1	
		物理化学Ⅱ	3前	2			○			1						
		物理科学実験Ⅱ	3前	2					○	3	1					
		物理科学実験Ⅲ	3後	2					○	3	1					
		物理学演習Ⅰ	3前	2				○			1					
		物理学演習Ⅱ	3後	2				○			1					
		分子生物学	3後	2			○								兼1	
		分析化学	3前	2			○			1						
		有機物質化学Ⅱ	3前	2			○			1						
		量子化学	3前	2			○			1						
		自然科学ゼミナールⅠ	3後	2				○		12	5					オムニバス
		自然科学特論	4前	2			○								兼1	集中
		自然科学ゼミナールⅡ	4前	2				○		12	5					
		小計 (71科目)	-	0	142	0			-	11	6	0	0	0	兼8	
情報科学専攻	情報科学専攻	線形解析Ⅰ	1前	2		○			1							
		線形解析Ⅱ	1後	2		○			1							
		データ構造	2前	2		○				1						
		プログラミング実習Ⅰ	2前	1				○			1					
		プログラミング実習Ⅱ	2後	1				○		1						
		プログラム言語Ⅰ	2前	2		○					1					
		プログラム言語Ⅱ	2後	2		○				1						
		確率と確率過程Ⅰ	2後	2		○			1							
		計算機科学Ⅰ	2前	2		○				1						
		計算機科学Ⅱ	2後	2		○				1						
		情報と職業	2後	2		○					1					
		情報基礎と社会	2後	2		○			1							
		情報数学演習	2前	2			○			1						
		情報数学演習Ⅱ	2後	2			○			1						
		情報理論A	2前	2		○			1							
		情報理論B	2後	2		○			1							
		電子回路	2後	2		○			1							
		複素解析	2前	2		○			1							
		アルゴリズム	3前	2		○				1						
		オペレーティングシステム	3前	2		○									兼1	
		コンパイラ	3後	2		○				1						
		システム科学Ⅰ	3前	2		○				1						
		システム科学Ⅱ	3後	2		○				1						
		システム科学演習Ⅰ	3前	2			○			1						
		システム科学演習Ⅱ	3後	2			○			1						
		ソフトウェア設計	3前	2		○						1			兼1	
		データベース	3後	2		○									兼1	
		確率と確率過程Ⅱ	3前	2		○			1							
		計算機アーキテクチャ	3後	2		○			1							
計算機実習Ⅰ	3前	1				○	1									
計算機実習Ⅱ	3後	1				○				1						
情報科教育法Ⅰ	3前	2		○			1									

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	健康 生活科学専攻	環境保健学	3前	2		○			1							兼1 兼1 集中 集中 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス 兼24
		地域保健学	3前	2		○			1							
		予防医学	3前	2		○										
		自律訓練法	3前	2		○				1						
		臨床実習	3前	2				○	1							
		生活色彩学	3前	2		○										
		生活色彩学演習	3前	2			○		1							
		労働保健学	3前	2		○										
		カウンセリング論	3前	2		○										
		看護科教育法Ⅱ	3前	2		○										
		看護学実習	3前	2				○								
		精神医学看護論	4前	2		○										
		衣環境特別演習	4前	2			○		1							
		居住環境特別演習	4前	2			○		1							
		産業保健と法律Ⅲ	4前	2		○			2							
		薬理学概論	4後	2		○			1							
		運動生化学	4後	2		○				1						
		産業保健と法律Ⅱ	4後	2		○			1							
		小計 (51科目)	-	0	100	0	-			4	1	0	0	0	0	
スポーツ 専攻	スポーツ競技力向上論	2前	2			○			1						兼1 集中 集中 集中 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼4	
	スポーツ医学	2前	2			○										
	スポーツ人間発達論	2前	2			○			1							
	競技者育成システム論	2後	2			○			1							
	スポーツ各論演習Ⅰ	3通	2				○		8							
	体力論	3前	2			○			1							
	スポーツ指導論	3前	2			○			1							
	スポーツ実験演習Ⅰ	3前	2				○		2							
	スポーツ実験演習Ⅱ	3前	2				○		2							
	スポーツ実験演習Ⅲ	3前	2				○		2							
	スポーツ行政論	3前	2			○			1							
	生涯スポーツ論	3後	2			○										
	アスレティックリハビリテーション	3後	2				○									
	スポーツバイオメカニクス	3後	2			○			1							
	スポーツ運動表現論	3後	2			○			1							
	スポーツ指導法演習	3後	2				○		1							
	スポーツクラブ実習	4前	2					○								
	スポーツマッサージ	4前	2				○									
	スポーツ各論演習Ⅱ	4通	2				○		8							
小計 (19科目)	-	8	30	0	-			5	0	0	0	0	0	兼4		
芸術 専攻	芸術 専攻 共通	管弦(雅楽)Ⅰ	1前	2				○							兼1 集中	
		絵画技法基礎演習	1前	2				○		1						
		デザイン技法基礎演習	1後	2				○		1						
		歌唱技法基礎演習	1後	2				○		1						
		絵画演習Ⅰ	2前	4				○		1					兼1 オムニバス	
		管弦(雅楽)Ⅱ	2前	2					○						兼1 集中	
		行書法演習	2前	2				○							兼1	
		書道概論Ⅰ(書写を中心とする)	2前	2				○							兼1	
		書道概論Ⅱ(書写を中心とする)	2後	2				○							兼1	
		総合造形演習A	2前	4				○							兼3 オムニバス	
		総合造形演習B	2後	4				○							兼2 オムニバス	
		草書法演習	2後	2				○							兼1	
		ダンス・クラシック	2後	2				○		1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	芸術専攻 共通	美学	2前	2		○			1									
		合唱Ⅱ	2通	2			○										兼2	
		作曲理論ⅡA	2前	2		○			1									
		作曲理論ⅡB	2後	2		○			1									
		映像デジタルメディア演習	3後	4			○											兼1
		演劇学概説Ⅰ	3前	2		○												兼1
		音楽音響学	3前	2		○												兼1
		絵画演習ⅡA	3前	4			○			1								
		管弦(雅楽)Ⅲ	3前	2				○										集中
		書人研究	3後	2				○			1							
		書論研究	3前	2				○										兼1
		体系的音楽学特講	3後	2		○												兼1
		篆刻法演習Ⅰ	3前	2			○											兼1
		篆刻法演習Ⅱ	3後	2			○											兼1
		舞楽(雅楽)Ⅰ	3前	2					○									兼1 集中
		文房概論	3前	2		○												兼1
		歴史的音楽学特講	3前	2		○				1								
		合唱Ⅲ	3通	2				○										兼2
		管弦(雅楽)Ⅳ	4前	2					○									兼1 集中
		美術作品研究	4通	4		○				1								
		舞楽(雅楽)Ⅱ	4前	2					○									兼1 集中
合唱Ⅳ	4通	2				○										兼2		
小計(35科目)	-	0	82	0	-	-	-	7	6	0	0	0	0	0	0	0	兼29	
専門教育科目	芸術学 コース	芸術学概論	1前	2			○		1									
		音楽学概論	2前	2		○			1									
		音楽学購読Ⅰ	2後	2			○		1									
		音楽学購読Ⅱ	2後	2			○		1									
		芸術作品研究	2通	4		○			1									
		美術学講読	2前	2			○		1									兼1
		美術学特講	2前	2			○		1									
		音楽学演習Ⅰ	3通	4			○		1									
		音楽学演習Ⅱ	3通	4			○		1									
		美学演習	3通	4			○		1									
		美術史演習	3通	4			○											兼1
		音楽学講読Ⅲ	3後	2			○		1									
		音楽学講読Ⅳ	3後	2			○		1									
		美術学演習	3通	4			○											
		美術史特講Ⅱ	3前	2			○		1									
		音楽学演習Ⅲ	4通	4			○		1									
		音楽学演習Ⅳ	4通	4			○		1									
		音楽学講読Ⅴ	4前	2			○		1									
		音楽学講読Ⅵ	4後	2			○		1									
		美術学研究Ⅰ	4通	4			○		1									
		美術学研究Ⅱ	4通	4			○											兼1
小計(21科目)	-	0	62	0	-	-	-	1	1	0	0	0	0	0	0	0	兼2	
専門教育科目	音楽 コース	オーケストラⅠ	1通	4			○		3	1							兼1	
		ピアノⅠ	1通	2			○										兼1	
		ピアノ独奏Ⅰ	1通	4			○		1	2							兼4	
		管弦打楽器Ⅰ	1通	2			○		3	1							兼9	
		管弦打楽器独奏Ⅰ	1通	4			○		3	1							兼8	
		合唱Ⅰ	1通	2			○										兼2	
		作曲実技Ⅰ	1通	4			○		1									

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 専攻専門科目 芸術専攻	音楽コース 作曲理論IA	1前		2		○			1							
	作曲理論IB	1後		2		○			1							
	室内オーケストラI	1通		2				○	3	1					兼1	
	声楽I	1通		2				○	1	1					兼2	
	独唱I	1通		4				○	1	1						
	オーケストラII	2通		4				○	3	1					兼1	
	ソルフェージュ	2通	2				○		1							
	ピアノII	2通		2				○	1	2					兼1	
	ピアノ独奏II	2通		6				○	1	2					兼4	
	音楽イタリア語I	2前		2			○				1					
	管弦打楽器II	2通		2					○	3	1				兼9	
	管弦打楽器独奏II	2通		6					○	3	1				兼8	
	作曲実技II	2通		6					○	1						
	室内オーケストラII	2通		2					○	3	1				兼1	
	室内楽(重奏・重唱・伴奏)	2通		2					○	5	4					
	声楽II	2通		2					○	1	1					
	独唱II	2通		6					○	1	1					
	舞台表現法I	2前		2				○							兼1	集中
	オーケストラIII	3通		4					○	3	1				兼1	
	ピアノ独奏III	3通		6					○	1	2				兼4	
	音楽イタリア語II	3前		2			○				1					集中
	管弦打楽器独奏III	3通		6					○	3	1				兼8	
	作曲実技III	3通		6					○	1						
	作曲理論III A	3前		2			○			1						
	作曲理論III B	3後		2			○			1						
	指揮法	3前		2					○						兼1	
	室内オーケストラIII	3通		2					○	3	1				兼1	
	室内楽(重奏・重唱・伴奏)II	3通		2					○	5	4					
	独唱III	3通		6					○	1	1					
	舞台表現法II	3前		2				○							兼1	
	オーケストラIV	4通		4					○	3	1				兼1	
	ピアノ独奏IV	4通		6					○	1	2				兼4	
	管弦打楽器独奏IV	4通		6					○	3	1				兼8	
	作曲実技IV	4通		6					○	1						
	作曲理論IV A	4前		2			○			1						
	作曲理論IV B	4後		2			○			1						
	室内オーケストラIV	4通		2					○	3	1				兼1	
	室内楽(重奏・重唱・伴奏)III	4通		2					○	5	4					
	独唱IV	4通		6					○	1	1					
	小計(46科目)		-	2	154	0		-		8	3	0	0	0	兼83	
	美術・書道コース	立体造形基礎演習	1前		4				○			1				
		漢字書道基礎演習	1前		2				○		1					
		絵画基礎演習	1後		4				○			1			兼1	オムニバス
		仮名書道基礎演習	1後		2				○			1				
		楷書法演習	1後		2				○			1				
		グラフィックデザイン演習A	2前		2				○			1				
グラフィックデザイン演習B		2後		2				○			1					
仮名作品制作論演習I		2後		2				○						兼1		
仮名書法演習		2前		2				○						兼2		
漢字作品制作論演習I		2前		2				○		1						
隷書法演習		2後		2				○						兼1		
篆書法演習		2前		2				○						兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 教育 科目	芸術 専攻 科目 美術・書道 コース	デザイン演習ⅠA	3前	4			○			1					兼2 オムニバス 兼1 兼1	
		デザイン演習ⅠB	3後	4			○			1						
		仮名作品制作論演習Ⅱ	3前	2			○			1						
		絵画演習ⅡB	3後	4			○									
		漢字作品制作論演習Ⅱ	3後	2			○			1						
		現代書法演習Ⅰ	3前	2			○									
		現代書法演習Ⅱ	3後	2			○									
		書技法論Ⅰ	3前	2			○			1						
		書技法論Ⅱ	3後	2			○			1						
		立体造形演習ⅡA	3前	4			○				1					
		立体造形演習ⅡB	3後	4			○				1					
		デザイン演習ⅡA	4前	4			○				1					
		デザイン演習ⅡB	4後	4			○				1					
		仮名作品制作論演習Ⅲ	4前	2			○				1					
		絵画演習ⅢA	4前	4			○				1					
		絵画演習ⅢB	4後	4			○				1					
		漢字作品制作論演習Ⅲ	4前	2			○			1						
		書道自由研究Ⅰ	4前	2			○			1	1					
		書道自由研究Ⅱ	4後	2			○			1	1					
		立体造形演習ⅢA	4前	4			○				1					
		立体造形演習ⅢB	4後	4			○				1					
小計 (33科目)		-	0	92	0				1	4	0	0	0	兼11		
自由 選択 科目	取得 科目 学校図書館 司書教諭 資格	学校経営と学校図書館	3前	2			○								兼1	
		学校図書館メディアの構成	3前	2			○								兼1	
		学習指導と学校図書館	3後	2			○								兼1	
		読書教育と図書館	3前	2			○								兼1	
		情報メディアの活用	3前	2			○								兼1	
小計 (5 科目)		-	0	10	0				0	0	0	0	0	兼3		
卒業研究		4通	6						38	28	4					
合計 (831 科目)		-	52	1740	0				38	28	4	0	0	兼184		
学位又は称号		学士 (教養)	学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										